

Continuous Growth with Sustainable Superior Profits

-中期経営計画 GLP2020
-2018年3月期 連結決算概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
CFO

2018年5月



東証第1部 : 6754
<https://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

I. 中期経営計画 GLP2020

1. GLP2020の基本方針
2. 中長期の事業戦略の基本方針
3. GLP2020: 売上高・営業利益計画
4. GLP2020: 財務戦略
5. GLP2020: T&M 事業
6. GLP2020: PQA 事業

II. 中期経営計画 GLP2020 補足

III. 2018年3月期 連結決算概要

I. 中期経営計画 GLP2020

I - 1 . GLP2020の基本方針

- ✓ 『利益ある持続的成長』路線を徹底する
- ✓ 2020VISIONの実現に全力で取り組む



I-2. 中長期の事業戦略の基本方針

成長ドライバーを確実にキャッチして、
“利益ある持続的成長” を実現する

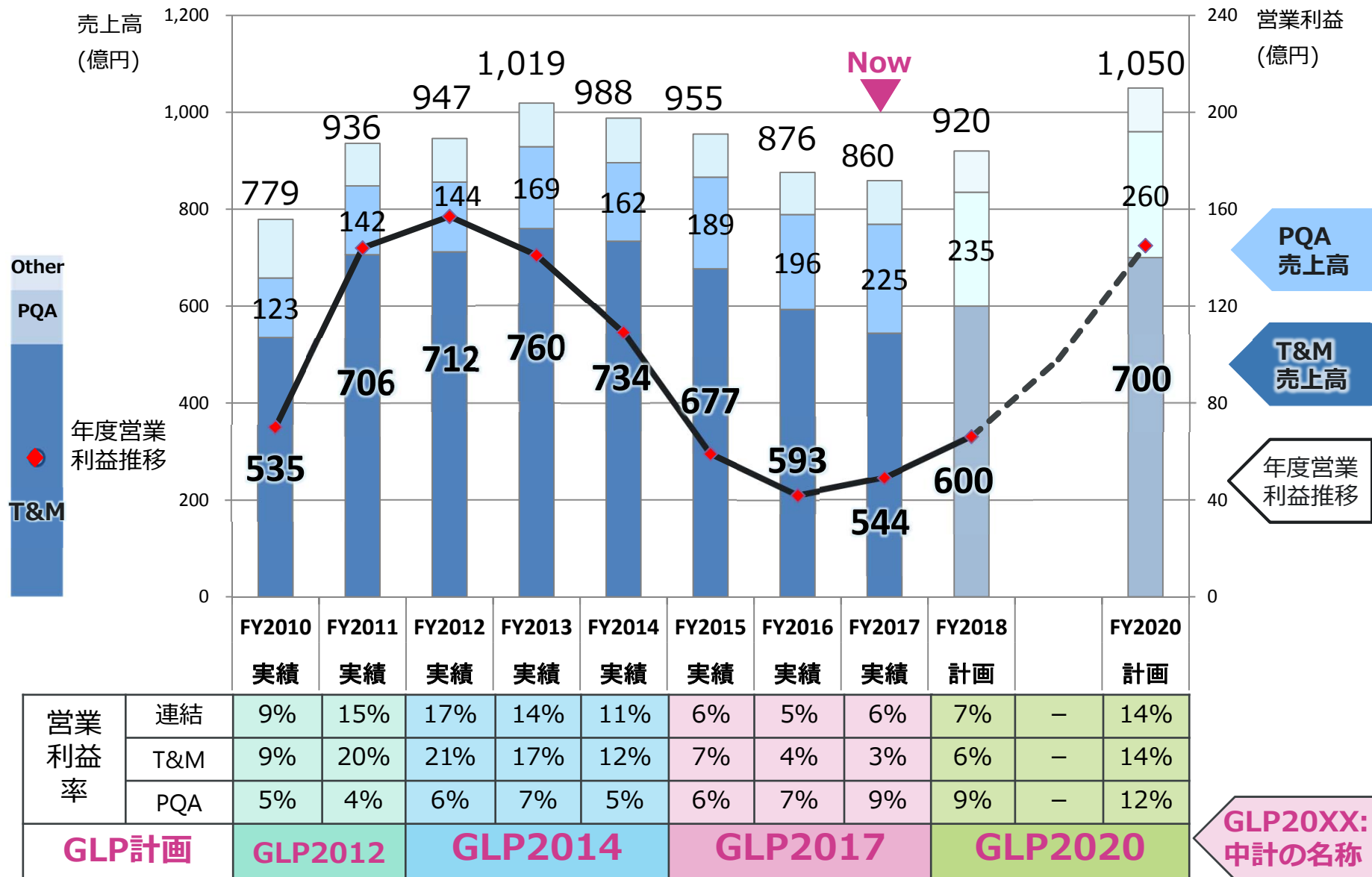
		市場 年平均 成長率 (当社推定)	ビジョン／成長ドライバー	中長期ガイドライン	
				売上 成長率	営業 利益率
	T&M	3-5%	5G/IoT社会を支えるリーディング カンパニーになる (1) 5G, LTE-Advanced (2) IoT/Automotive, Connectivity (3) IP Data traffic/Cloud Services	$\geq 7\%$	$\geq 20\%$
	PQA	3-5%	ワールドクラスの品質保証 ソリューションパートナーになる 異物検出から品質保証市場に拡大	$\geq 7\%$	$\geq 12\%$
	連結	—	—	—	$\geq 18\%$
	ROE	—	—	$\geq 15\%$	

I -3. GLP2020 : 売上高・営業利益計画 (1/2)

		GLP2020		
指標		FY2017	FY2018	FY2020
売上高		860 億円	920 億円	1,050 億円
営業利益		49 億円	66 億円	145 億円
営業利益率		6 %	7 %	14 %
当期利益		29 億円	50 億円	110 億円
ROE		3.7%	7%	12%
T&M 事業	売上高	544億円	600 億円	700 億円
	営業利益	18 億円	35 億円	100 億円
	営業利益率	3 %	6 %	14 %
PQA 事業	売上高	225 億円	235 億円	260 億円
	営業利益	20 億円	20 億円	30 億円
	営業利益率	9 %	9 %	12 %

(参考) GLP2020想定為替レート：1米ドル=105円、1ユーロ=125円

I -3. GLP2020：売上高・営業利益計画（2/2）

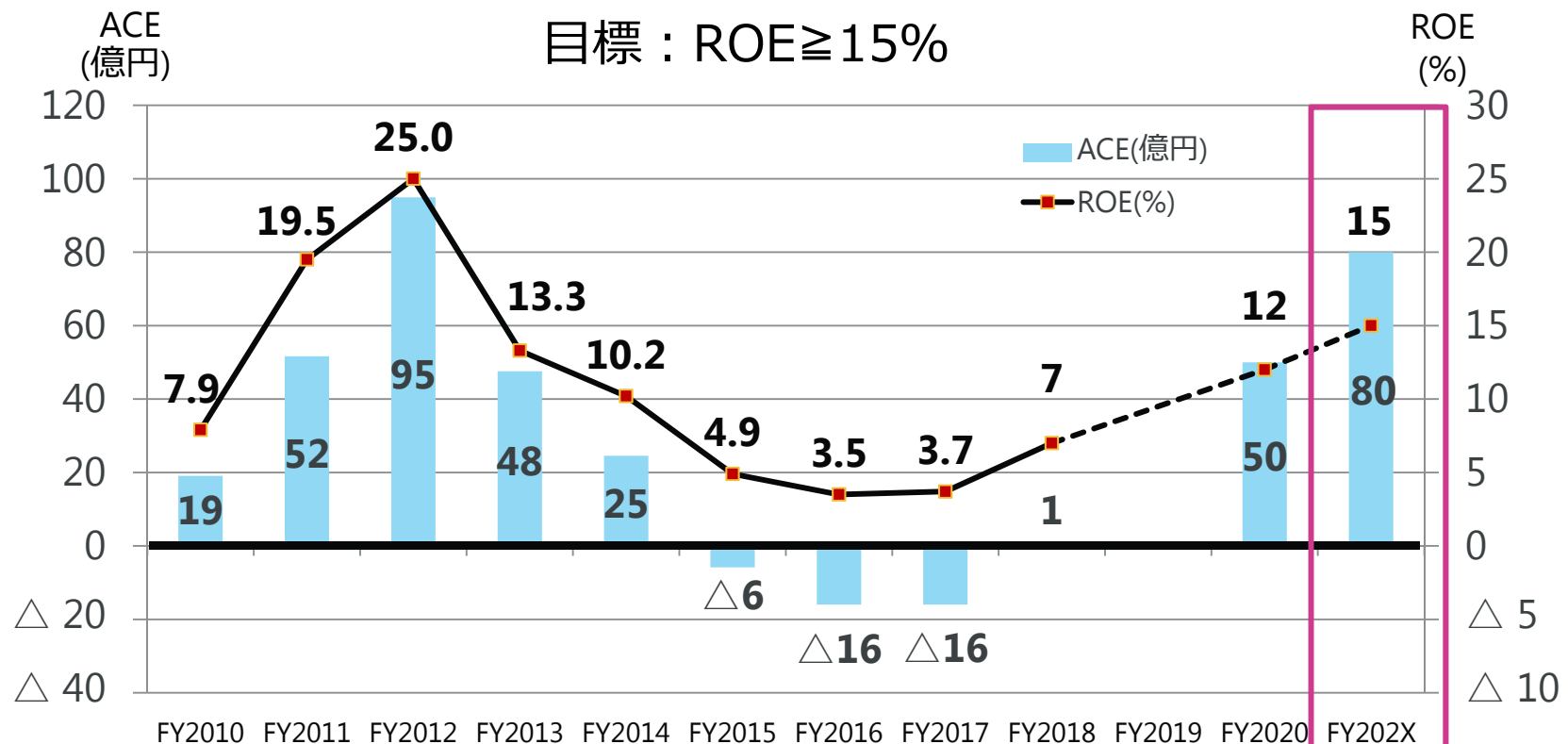


I -4. GLP2020：財務戦略

基本方針

株主資本コスト7%を上回るリターンを生み出す
成長投資（含むM&A）と資本効率の改善で、
企業価値KPI(ACE & ROE)を向上する

* ACE（Anritsu Capital-cost Evaluation）：税引後営業利益-資本コスト(WACC,5%)



I - 5. GLP2020 T&M事業

I-5-1.T&M事業：中期経営計画(GLP2017) レビュー

事業環境	施策と成果
モバイル計測市場の大幅な落ち込み ■ モバイル計測市場の規模は、2012年のピークから40%まで落ち込む ■ LTEの基地局の設備投資が一巡 ■ LTEの進化は継続 －LTE-Advanced/ Pro ■ 5Gの初期開発の動きが前倒し － 5 G NSA規格が18年3月末完了 ■ IoTへの投資は揺籃期 光・デジタル計測市場は堅調に推移 ■ データセンター高速化、大容量化 実現のための光モジュールの需要拡大	経営構造改革と5G開発投資を強化 ■ 経営構造改革 “REBORN-M” の徹底 ■ 北米の組織スリム化策実行 ■ 5Gビジネスへの投資 - 2018年2月、5G新製品のリリース - Azimuth Systems社の買収 - サポート体制の強化： フィリピン開発センターの設立 ■ IoTビジネスに注力する事業部の設立 光デジタル新製品をTTMに投入 ■ R&D用(400G対応)、製造用(100G対応)の新製品を投入し、市場の要求に応える

I-5-2. T&M事業：GLP2020 基本戦略

ビジョン

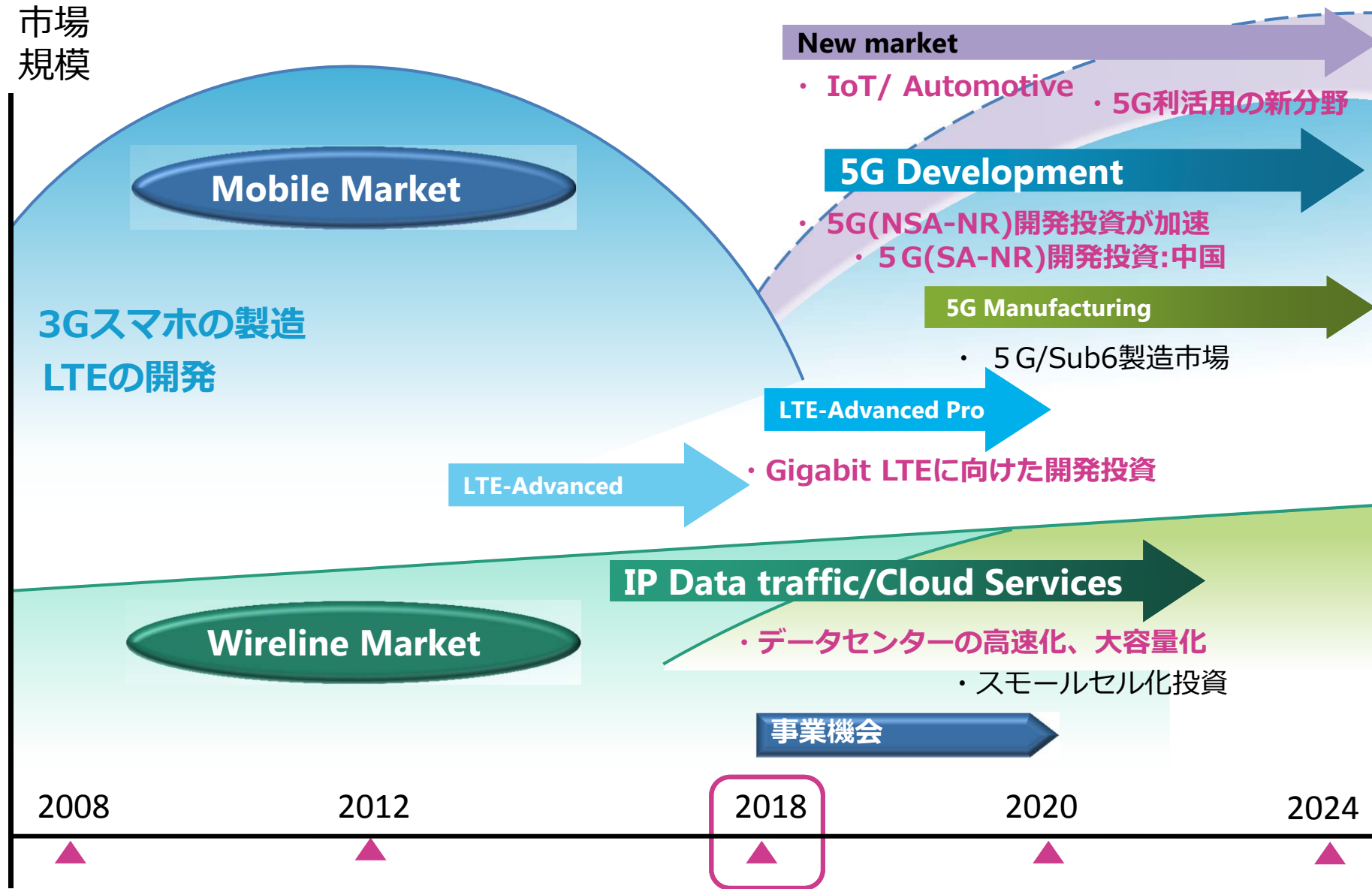
5G/IoT社会を支えるリーディングカンパニーになる

セグメント別戦略の要点

- 4G市場でのビジネスを維持しつつ、5Gで競合に先行しNo.1 T&Mベンダになる
- 5G利活用として成長が期待されるIoT/Automotive分野で新たな収益の柱に育成する
- クラウドサービスの拡大を支えるテストソリューションを創出する

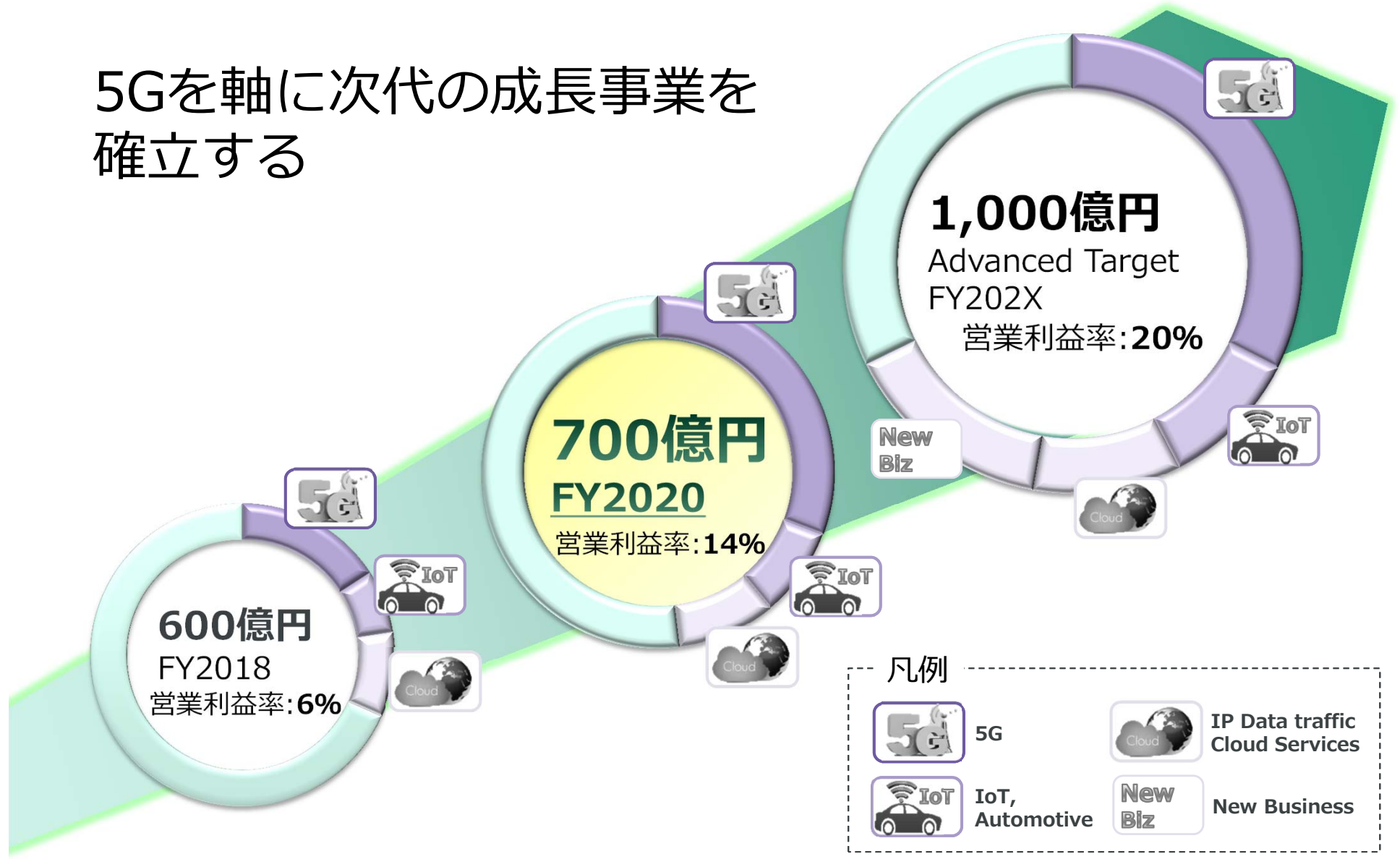
I-5-3. T&M事業：計測市場トレンドと事業機会

市場
規模

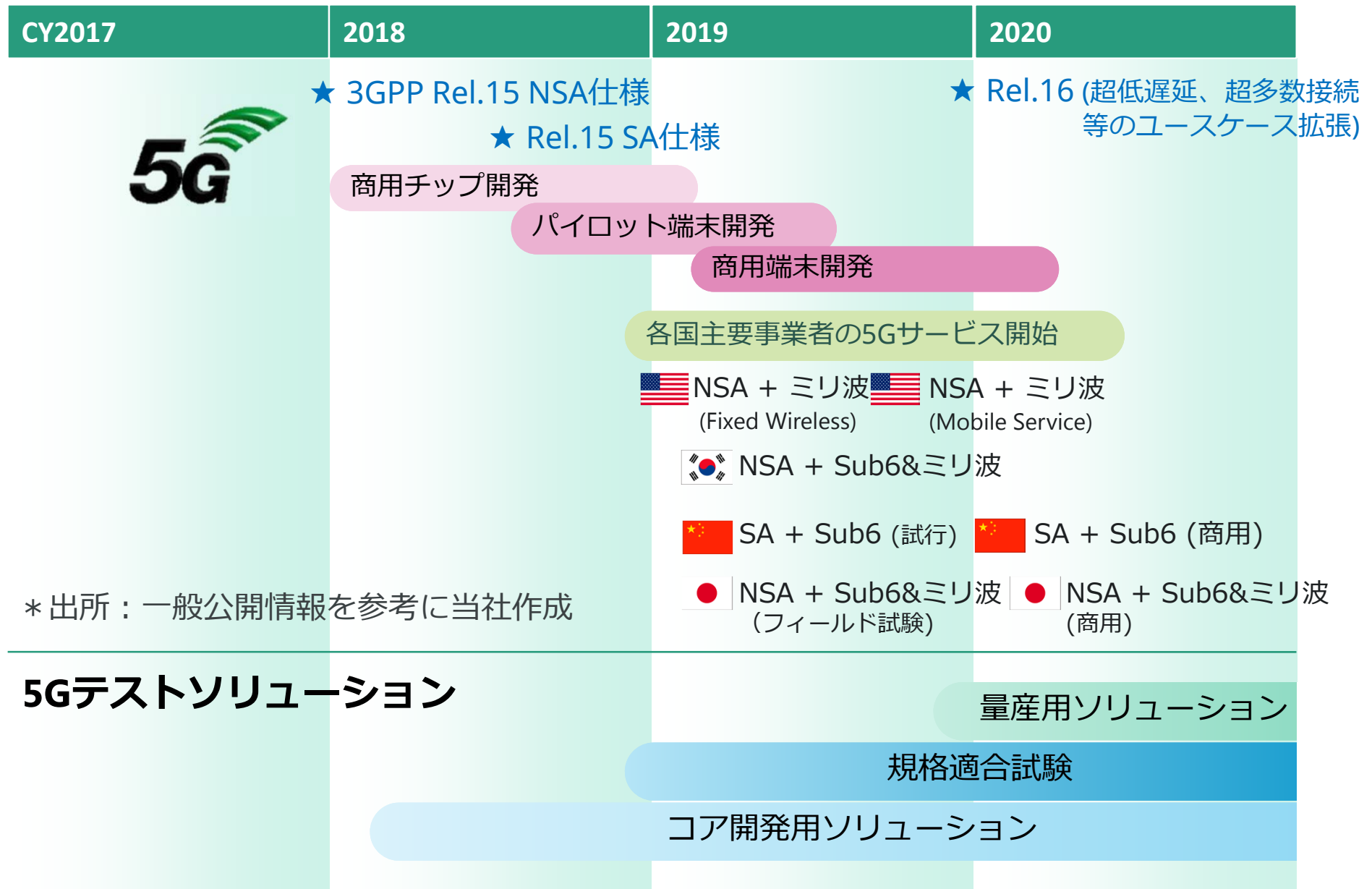


I -5-4. T&M事業：GLP2020売上高・営業利益計画

5Gを軸に次代の成長事業を
確立する



I -5-5. T&M事業：5Gサービスのロードマップ



I - 6. GLP2020 PQA事業

I -6-1. PQA事業：中期経営計画(GLP2017) レビュー

事業環境	施策と成果
「安全で安心な食」に対する関心が世界的に高まる ■ 加工食品の需要増、消費期限の長期化 ■ HACCPなどの衛生管理手法が浸透 ■ 抜き取り検査から全数検査へ ヒトによる検査から自動検査へ 品質向上と生産性の両立を求め、検査の自動化が世界的に進行 ■ 生産量の増大、ラインの高速化 ■ 慢性的な人手不足、人件費高騰 ■ 原材料の高騰、食品ロス低減	最先端の品質保証課題の克服に積極投資 ■ 大手食品企業、コンビニエンダーなど品質保証に先進的な顧客と課題を共有 ■ 虫，樹脂，細い骨等の自動検査に投資 品質保証に貢献する新商品を開発 ■ 長寿命で低ランニングコストなX線検査機 ■ 包装シール不良検査用X線検査機 ■ 検査性能を飛躍的に高めた金属検出機 ■ トレーサビリティ構築と生産性向上に貢献するデータ管理システム グローバル企業との関係を強化 ■ 世界最大手の食品・飲料企業や、菓子企業との関係を強化して実績を拡大

I-6-2. PQA事業：GLP2020 基本戦略

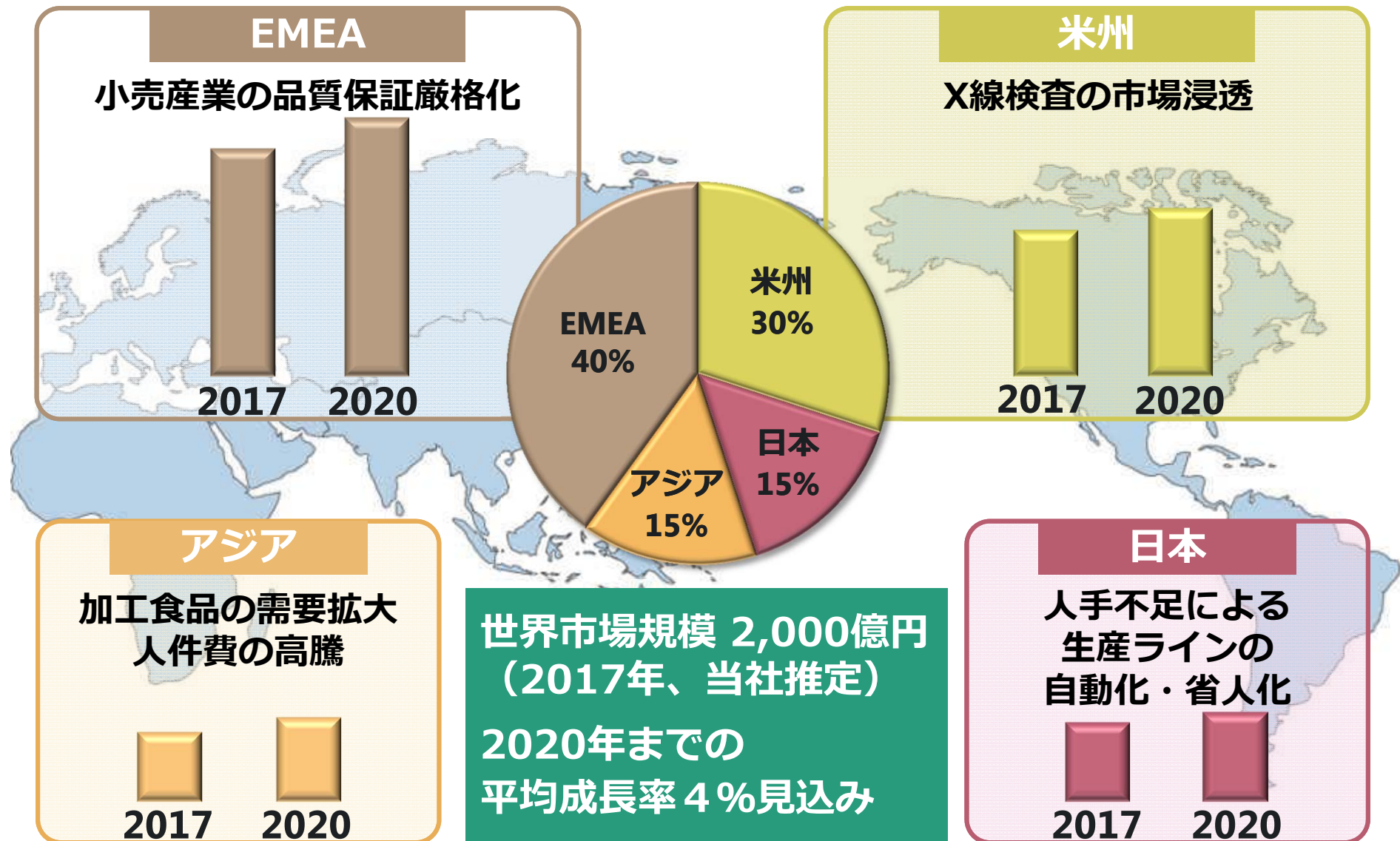
ビジョン

ワールドクラスの品質保証ソリューションパートナーになる

基本戦略

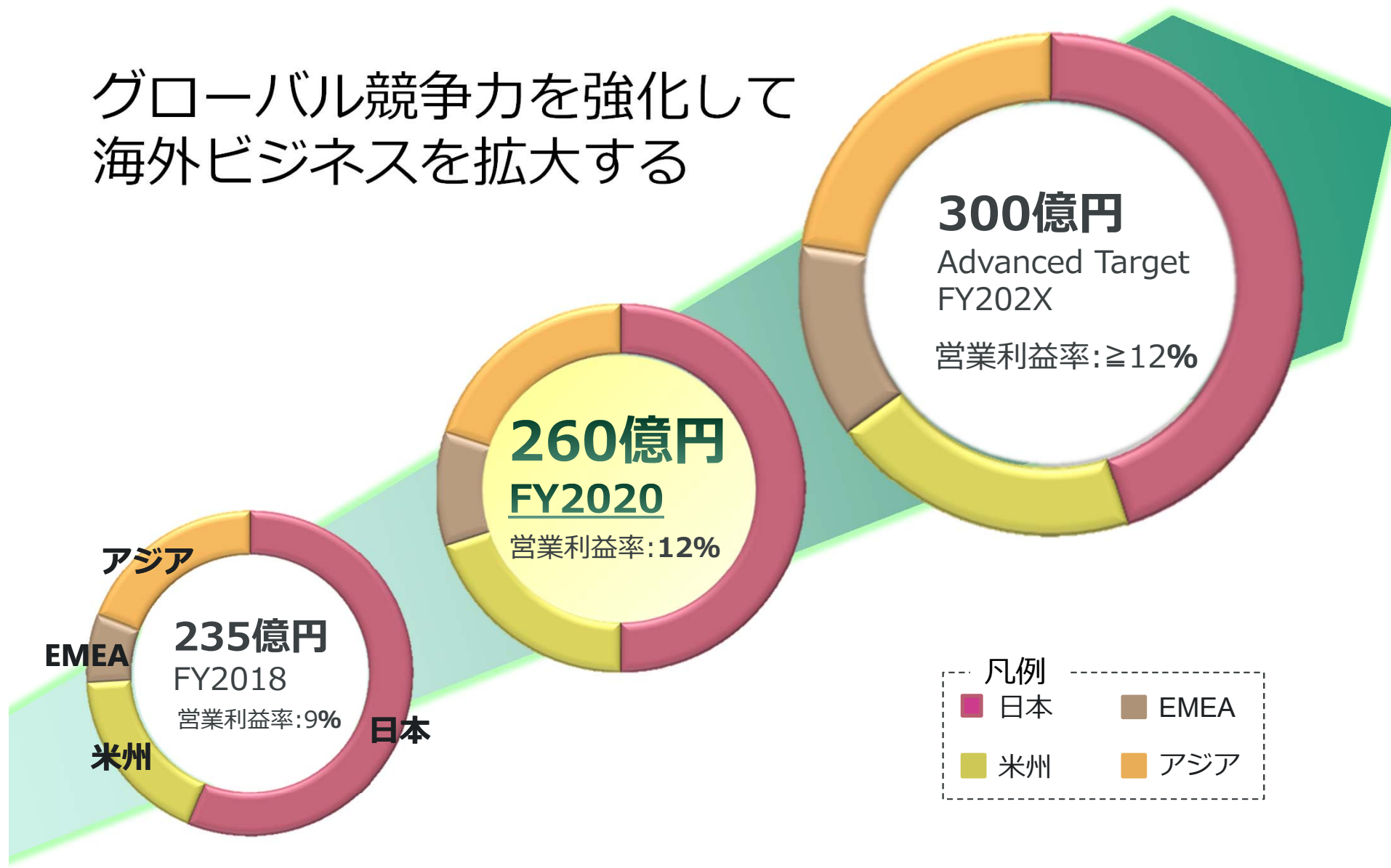
- X線検査機をキー・ソリューションとした欧米先進市場の開拓
- ローカライゼーションによる市場ニーズへの的確な対応とグローバルビジネス改革
- 高付加価値ソリューションと海外ビジネス拡大による利益体質の強化

I -6-3. PQA事業：PQA市場の現状と見通し



I-6-4.PQA事業：GLP2020売上高・営業利益計画

グローバル競争力を強化して
海外ビジネスを拡大する



Ⅱ. 中期経営計画 GLP2020 補足

Ⅱ - 1 . 事業概要

T&M事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場 : 5 G, LTE
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出器
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2018年3月期 実績 (連結) : 860億円

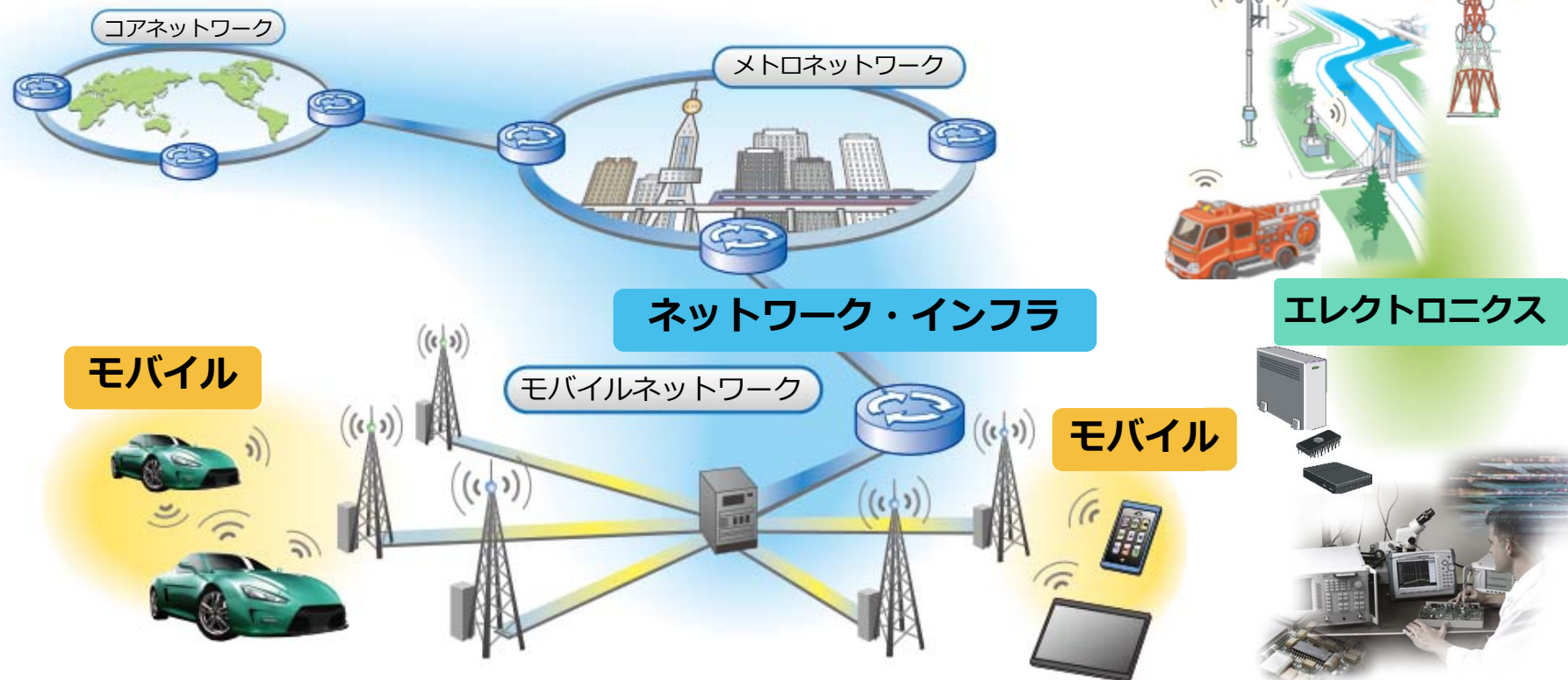
T&M 63%			PQA 26%	その他 11%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 32%	エレクトロニクス 23%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 20%	アジア、パシフィック 38%	米州 23%	EMEA 19%
-----------	-------------------	-----------	-------------

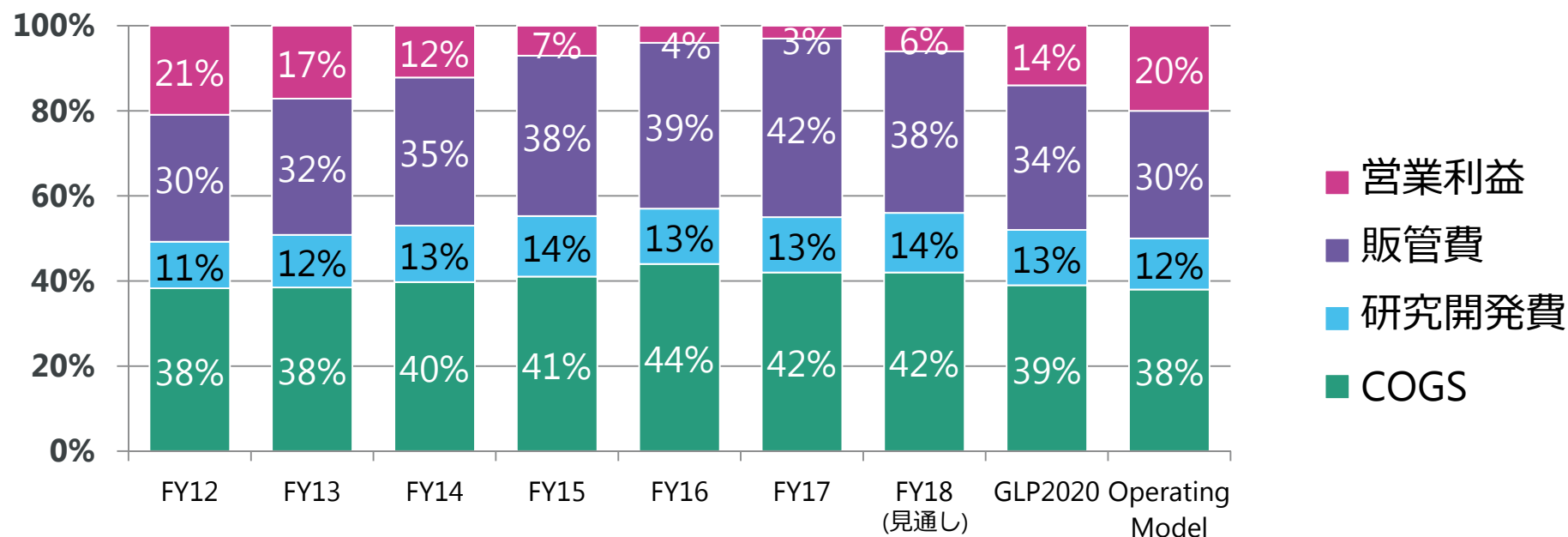
T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

Ⅱ-1-1. T&M事業のビジネス領域



	研究開発	製造	建設/保守
有線通信分野	ネットワーク・インフラ(32%)		
無線通信分野	モバイル (45%)		
汎用分野	エレクトロニクス (23%)*		*電子部品等

Ⅱ-2-1. 利益体質改善目標<T&M>

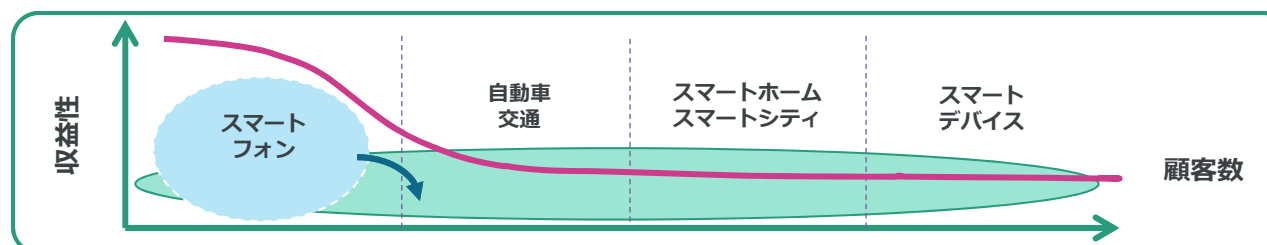
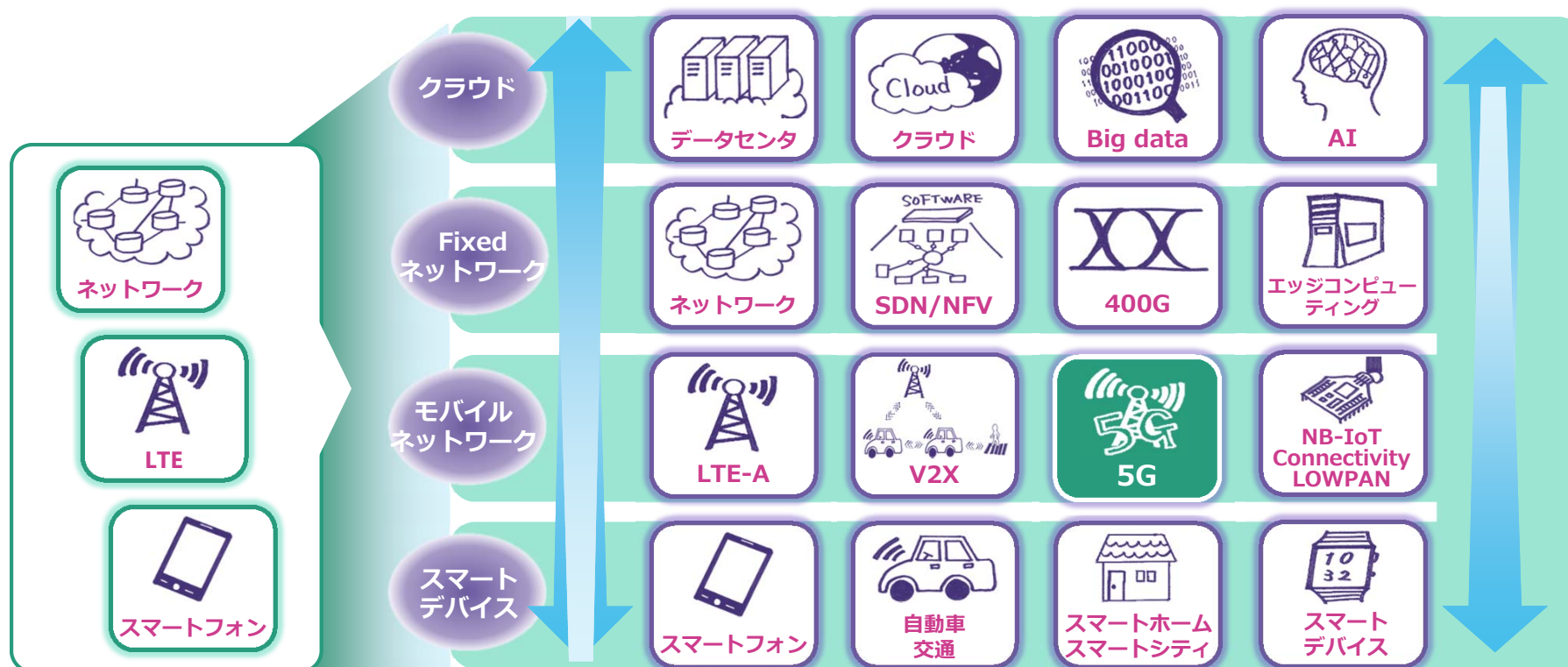


コスト構造の改善施策

- 高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウェア)
- 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- 販管費 : 顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

*1 KPI : 開発ROI (売上総利益／開発投資額) ≥ 4.0

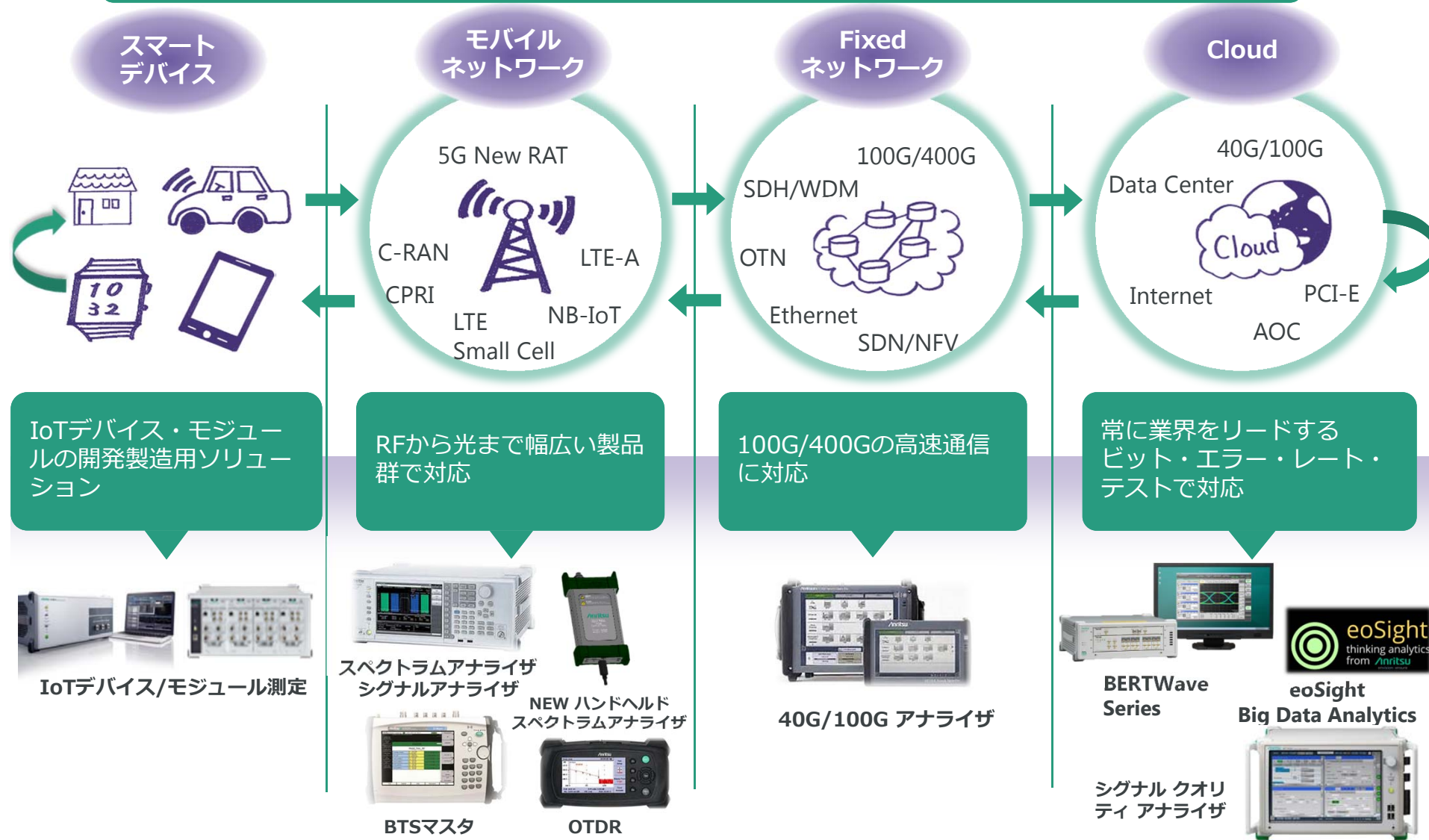
Ⅱ-2-2. 5G/IoTに向けてアンリツのビジネスエリアは拡大



Source: NIKKEI COMMUNICATIONS April issue 2015
(From materials of the Ministry of Internal Affairs and Communications)

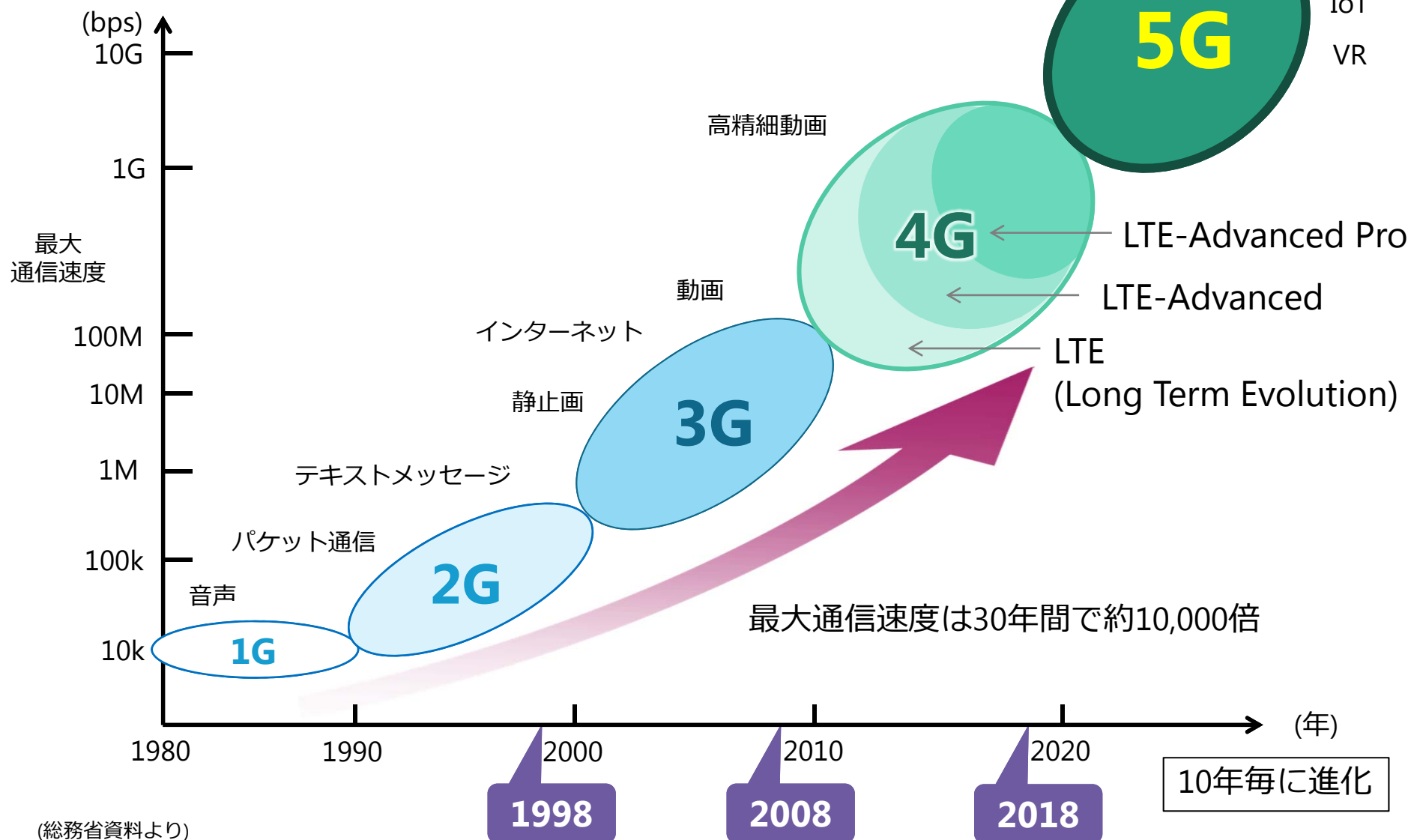
Ⅱ-2-3. 5Gネットワークを支えるアンリツのソリューション

5Gの特徴 : **1/10×Latency** **100×Peak Data Rate** **100×Capacity**

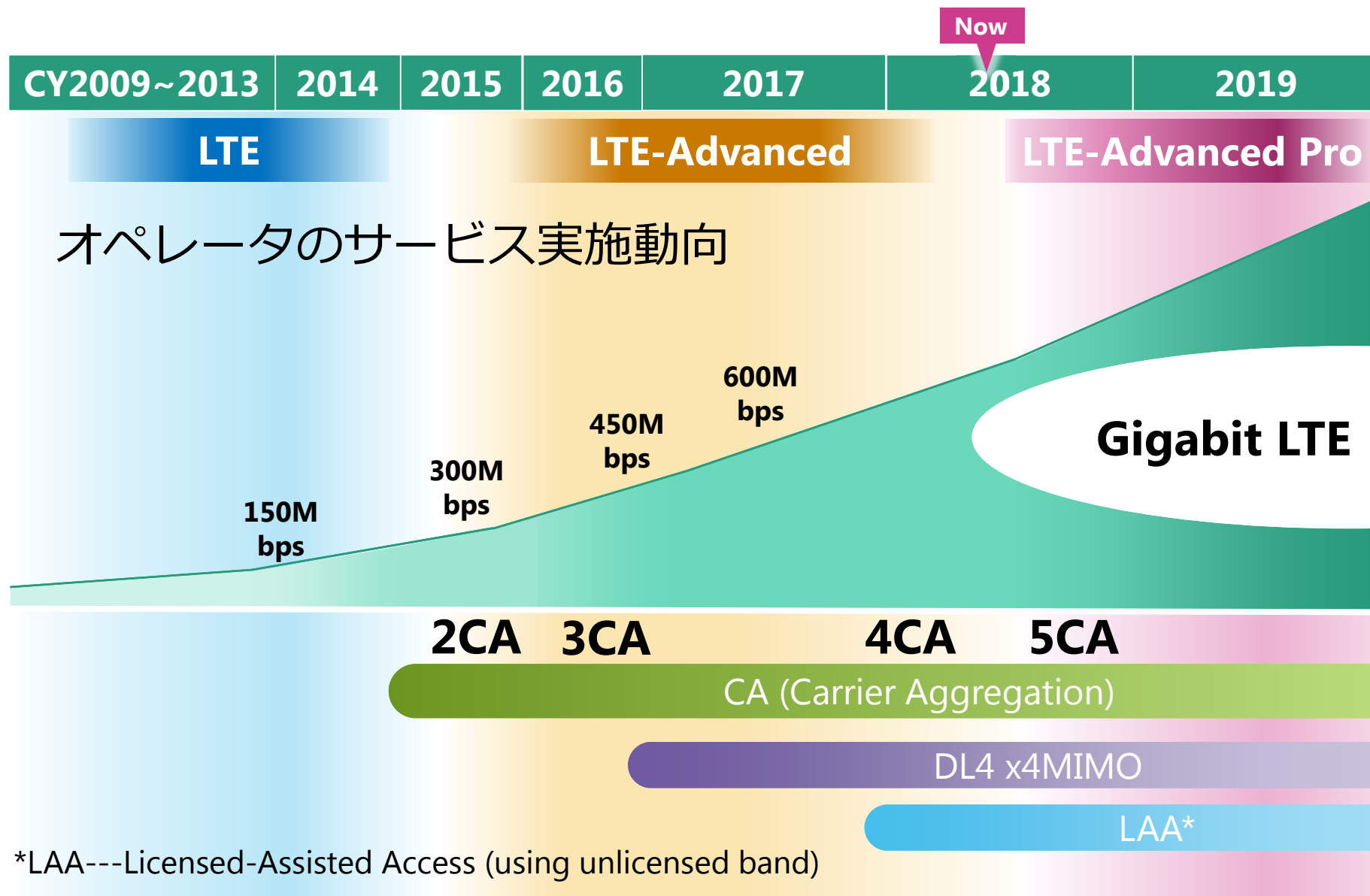


Ⅱ-3. Cellular Test Solutions

移动通信システムの進化をサポートする

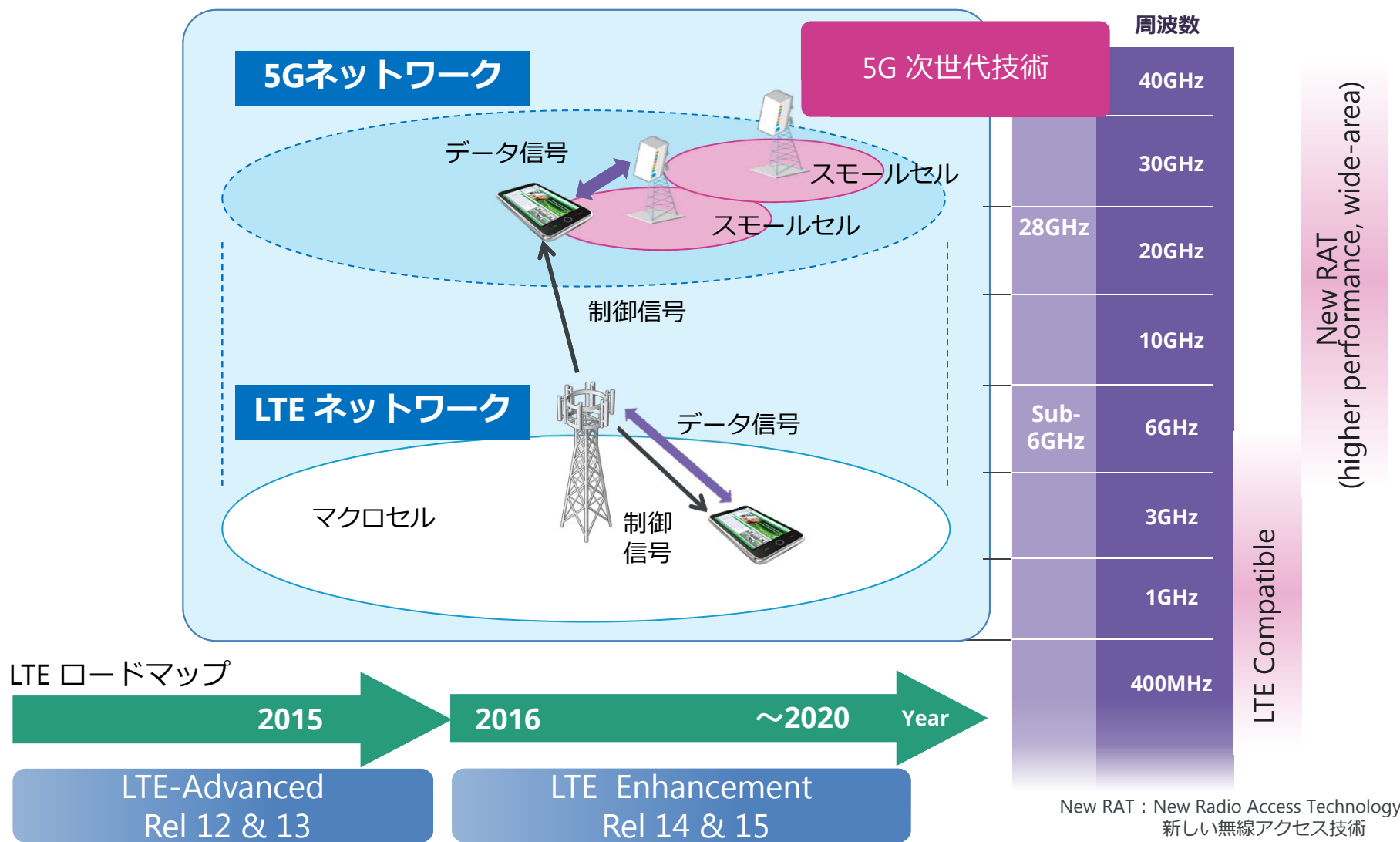


Ⅱ-3-1. LTEサービスのロードマップ



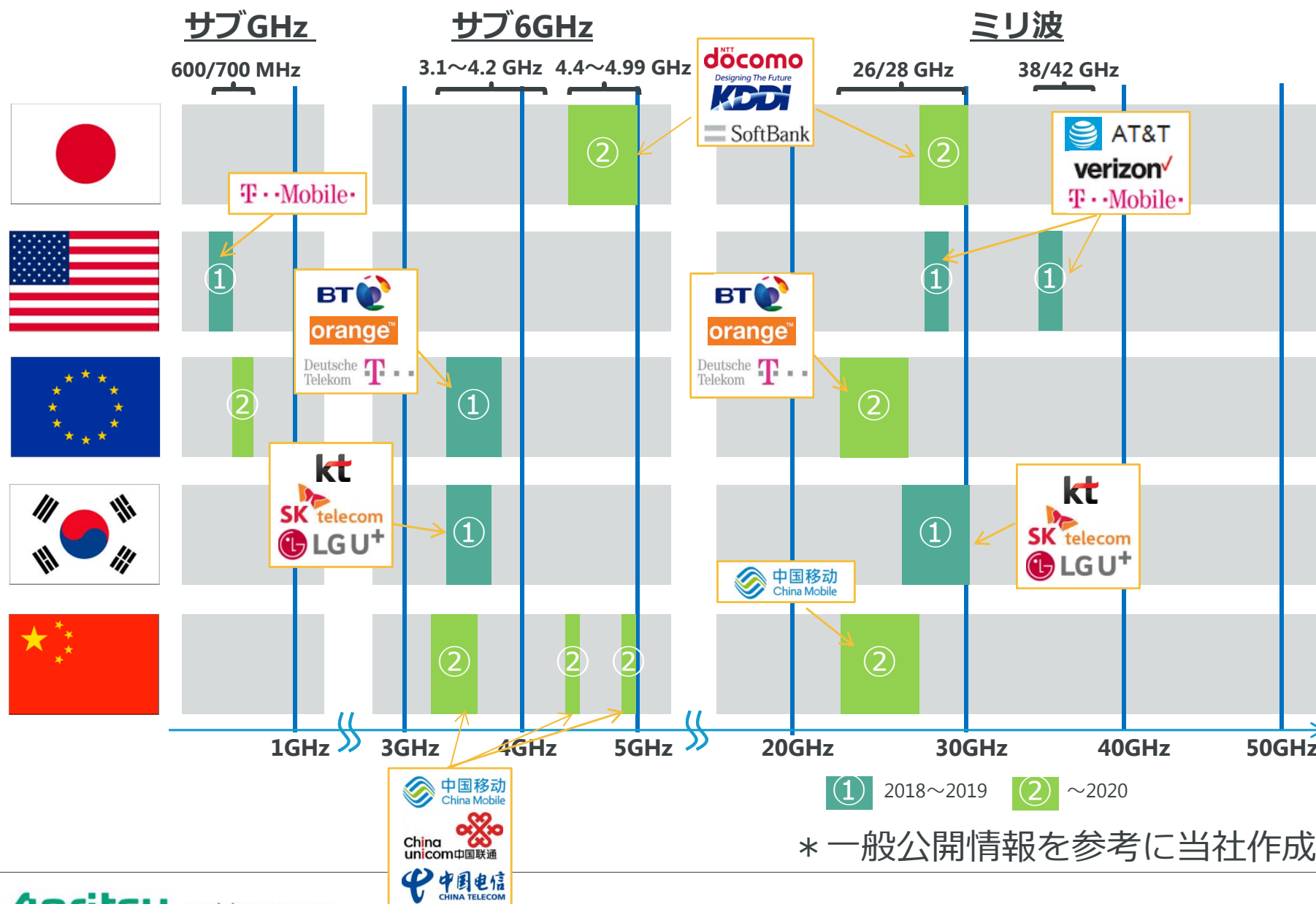
Ⅱ-3-2. 5GとLTEは共存し関係して動作する

5G = LTEの技術進化 + 次世代無線技術

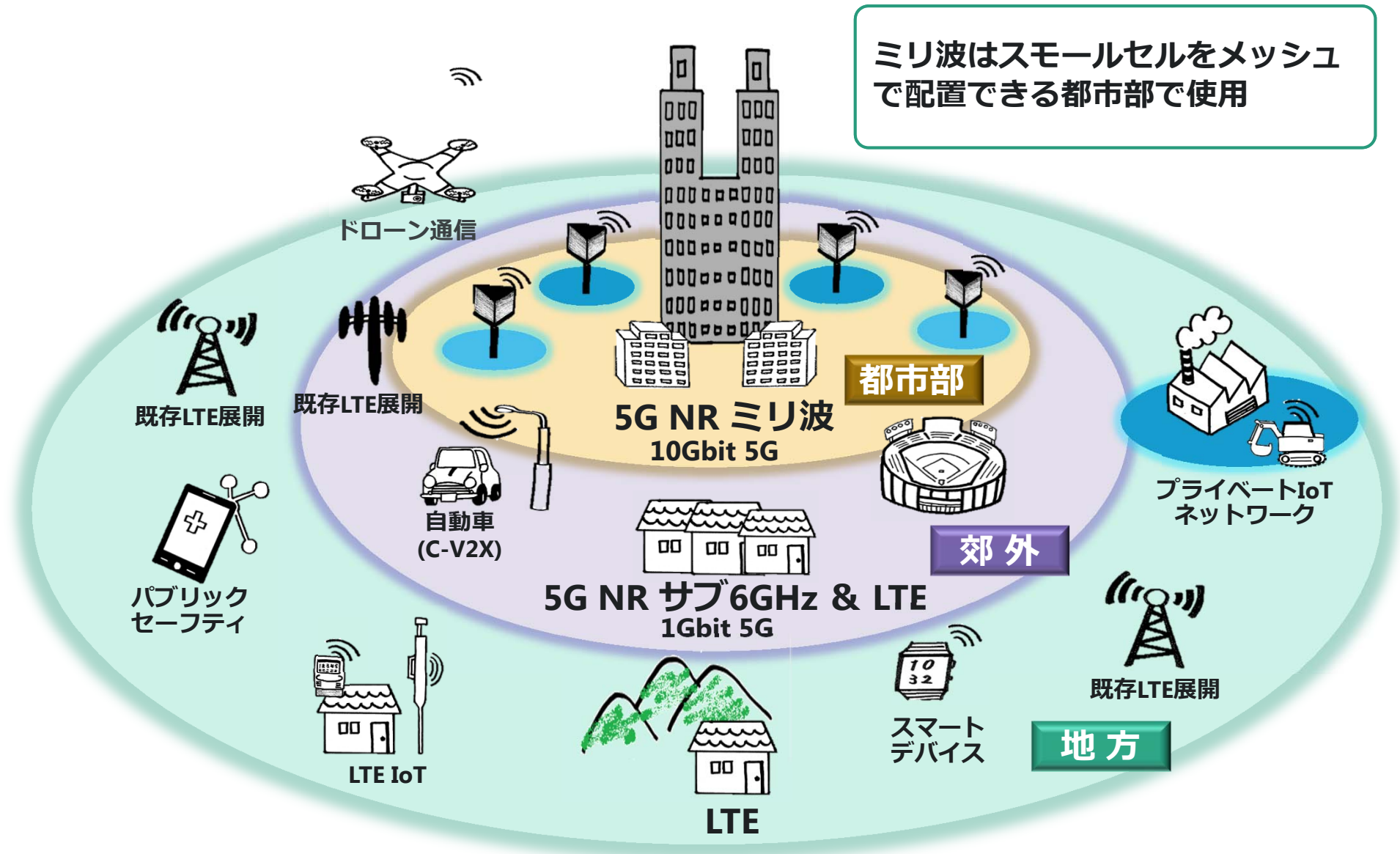


Blank Slide

Ⅱ-3-3. 各国の5Gへの周波数の割り当て

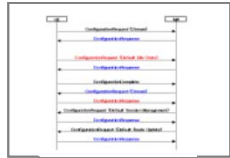


Ⅱ-3-4. 5G サービスの展開予想



Ⅱ-3-5. LTEスマートフォンのテストプロセスとアンリツのソリューション

通信技術検証



プロトコル



ベースバンドチップ
セット / RF回路

結合・性能評価



規格適合性試験

Conformance Test
(CT)

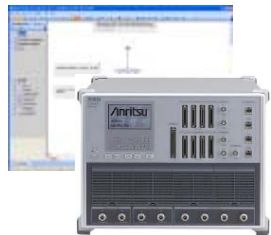


事業者受入試験

Carrier Acceptance
Test (CAT)



量産試験



チップセット &
プロトコル検証



機能試験



RF性能試験

通信プロトコル
コンFORMANCE



RFコンFORMANCE



事業者の要求仕様
適合検証



生産工程における
校正および検査

Ⅱ-3-6. モバイル開発ビジネスの市場動向と事業機会

	プラットフォーム (コア) 開発	規格適合試験		オペレータ 受入試験	スマートフォン 商用開発
		RF	プロトコル		
用途	通信規格開発 チップセット開発	規格適合性試験 相互接続試験		通信キャリア認証 試験	アプリ開発 端末動作検証
主な顧客	チップセットベン ダー、端末ベンダー	チップセットベンダー、端末ベン ダー、通信キャリア		通信キャリア テストハウス	端末ベンダー アプリ開発事業者
主要テーマ	・FDD / TDD-LTE, LTE-Advanced (Carrier aggregation etc.) ・VoLTE (Voice over LTE) ・MIMO (Multi Input Multi Output) ・3G/LTE and SRW (Short Range Wireless)のチップセット一体化				・データスループッ ト向上 ・消費電力 など
市場動向・ 事業機会	 No.1ポジション 堅持	 No.1ポジション 堅持	 市場拡大 ポジション向上	 市場拡大 ポジション向上	 市場拡大 ポジション向上
製品					
主な競合	ローデ & シュワルツ		ローデ & シュワルツ キーサイト(アジレント、アナイト) スパイレント		ローデ & シュワルツ キーサイト

Appendix-1. 5Gシステム開発用テストの新製品

2018/2/19付ニュースリリース

5G向けチップセットや端末などの開発用テストであるラジオ コミュニケーション テストステーション MT8000Aの販売開始を、近日中に予定



超高速・大容量の5Gシステムで要求される広帯域信号処理やビームフォーミング技術等を実現するテストプラットフォーム

先進のアーキテクチャで新規に設計し、1台のMT8000Aでサブ6GHzやミリ波帯のRF試験とプロトコル試験に対応



MT8000A Radio Communication Test Solution

Appendix-2. 5G基地局/端末向けソリューション

2017/5/29付ニュースリリース



5Gの基地局や端末のR&D、製造に必要な
ミリ波測定ソリューションを今までに無い
低価格で実現したシグナルアナライザ

MS2850A シグナルアナライザ

周波数範囲：9 kHz~32 GHz/44.5 GHz

解析帯域幅：255 MHz (標準)、510 MHz (オプション)、
1GHz (オプション)

今までのLTE用のシグナルアナライザ



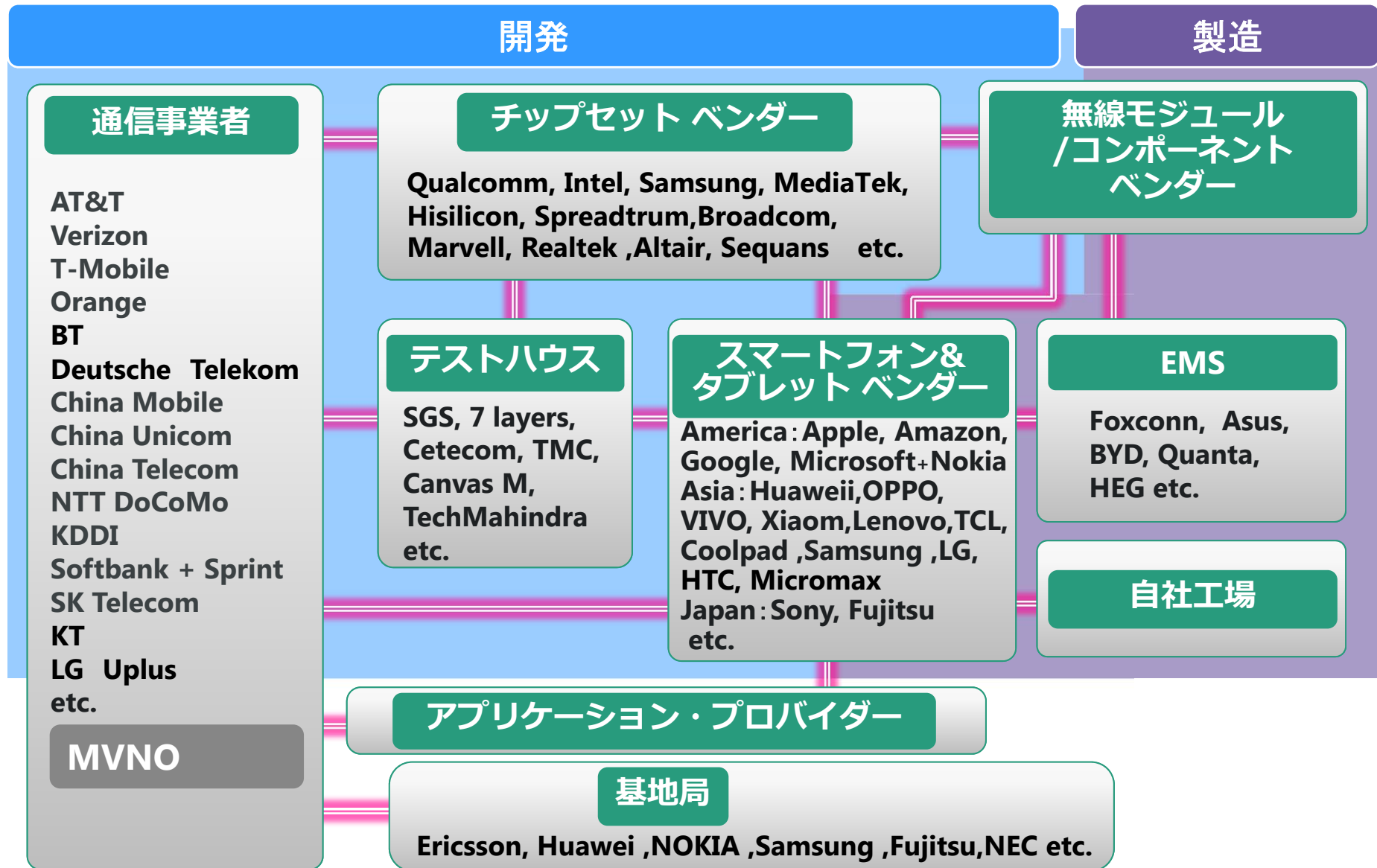
- 6GHz以下の周波数が主体
- 解析帯域は20MHzから数百MHz

5G用のシグナルアナライザ



- 44.5GHzまでの周波数をカバー
- 解析帯域は1GHzまで対応
- 商用開発、製造で導入できる低価格

Ⅱ-3-7. モバイル通信市場の業界構造



Blank Slide

Ⅱ-3-8. アジマスシステム社の買収

- ・会社名： Azimuth Systems, Inc.
- ・本社所在地：米国 ボストン
- ・事業形態：チャネル・エミュレータなどの開発・販売
- ・主な顧客：米州、EMEA、アジアおよび日本のオペレータ、チップセットベンダー、ネットワーク機器ベンダー、UEベンダーなど

Anritsu
envision:ensure

Mobile Devices
Protocol Technology

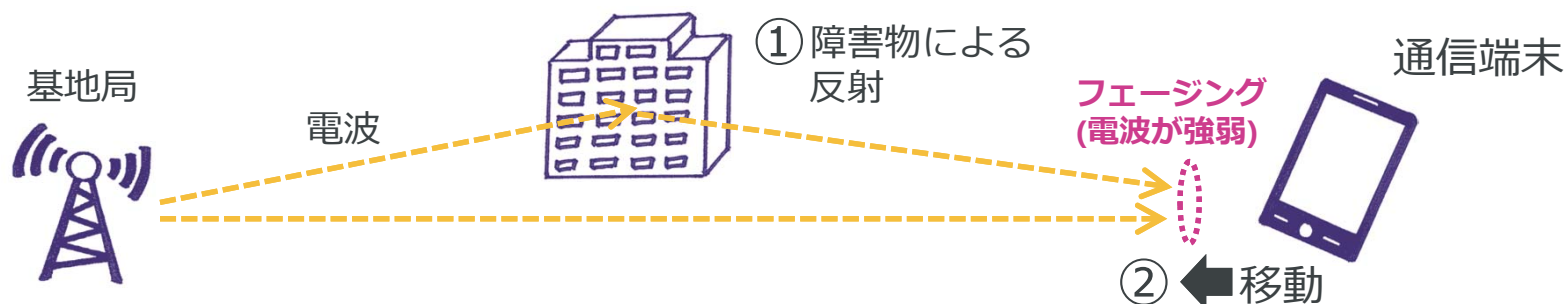


2016年9月

Azimuth

Network Infra.
RF Technology

実環境



ラボ内 (例: 通信端末試験)



Ⅱ-3-9. アンリツとアジマスシステム社の コラボレーションによるソリューション

Anritsu
envision:ensure

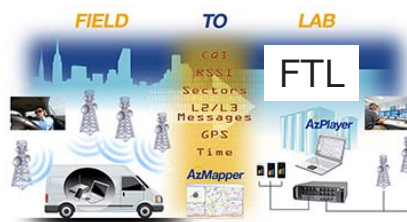


Azimuth
チャンネル・エミュレータ



OTA※向けソリューション

- 3CA/4CA ※OTA : Over The Air
- 4x4MIMO
- Cellular/WiFi 試験



Automotive向けソリューション

- Telematicsドライブエミュレーション
- 車載モジュール受信評価
- Cellular/WiFi 試験



5G用チャンネル・エミュレータ



5G R&D向けソリューション

- 5G RFコンFORMANCE試験
- 5G プロトコルコンFORMANCE試験

短期

両社が得意とする市場へコラボレーションによる売り上げ増

中期

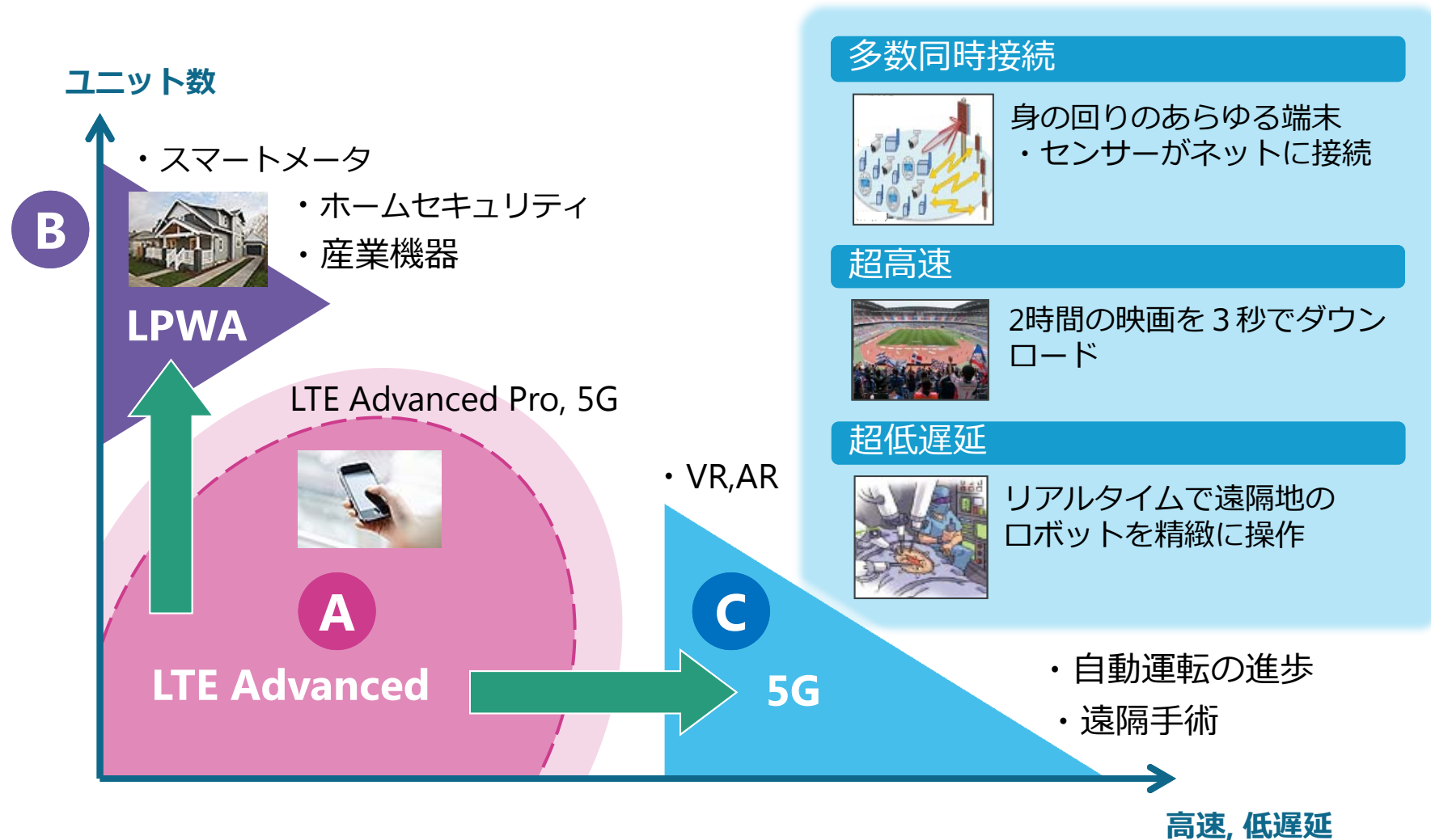
- ①当社のプロトコル技術とアジマスシステム社のRF技術を融合したソリューションを提供（5Gの開発用測定器立ち上がり期）
- ②自動車市場にドライブエミュレーション等を展開

長期

5G端末用コンFORMANCE試験の提供

Ⅱ-4. 産業別テストソリューション

5Gの利活用により、多様な産業分野、そして新しい市場の創造をサポートしていくことで、収益機会を拡大。



Ⅱ-4-1. スマートフォンの製造ソリューション

A

最近の動向

1. Huawei, Vivo, Oppo
中国ベンダーの台頭と競争激化 ()
2. インド製造市場の成長

2G / 3G / LTE やコネクティビティ向けソリューション

MT8870A
Universal
Wireless Test Set

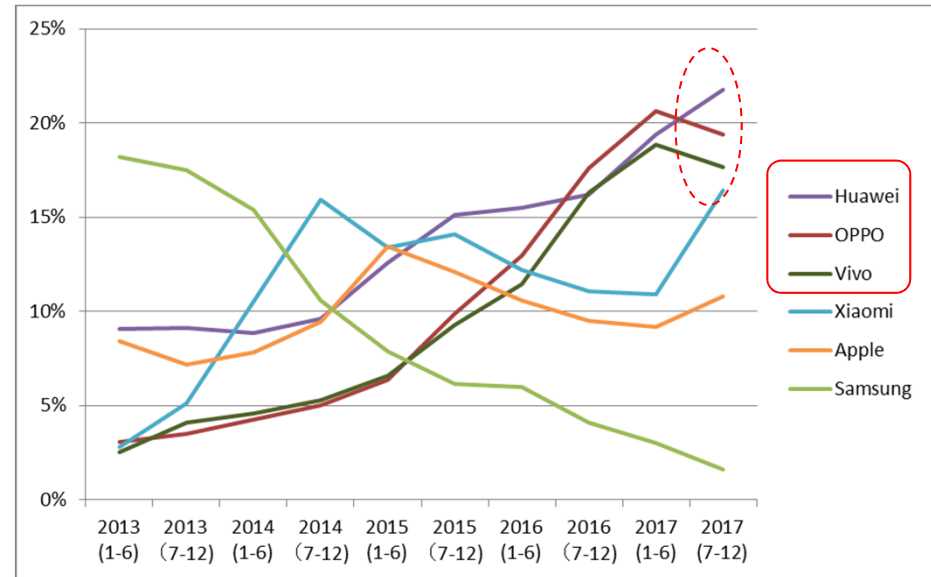


主な競合

ローデ&シュワルツ、キーサイト

本レポートにおいてガーートナーに帰属するすべての記述は、ガーートナーの顧客向けに発行された配信購読サービスの一部として発行されたデータ、リサーチ・オピニオン、または見解に関する アンリツによる解釈であり、ガーートナーによる 本レポートのレビューは行われておりません。ガーートナーの発行物は、その発行時点における見解であり、本プレゼンテーション発行時点のものではありません。ガーートナーの発行物で述べられた意見は、事実を表現したものではなく、事前の予告なしに変更されることがあります。

中国でのベンダー別スマートフォン出荷シェア *

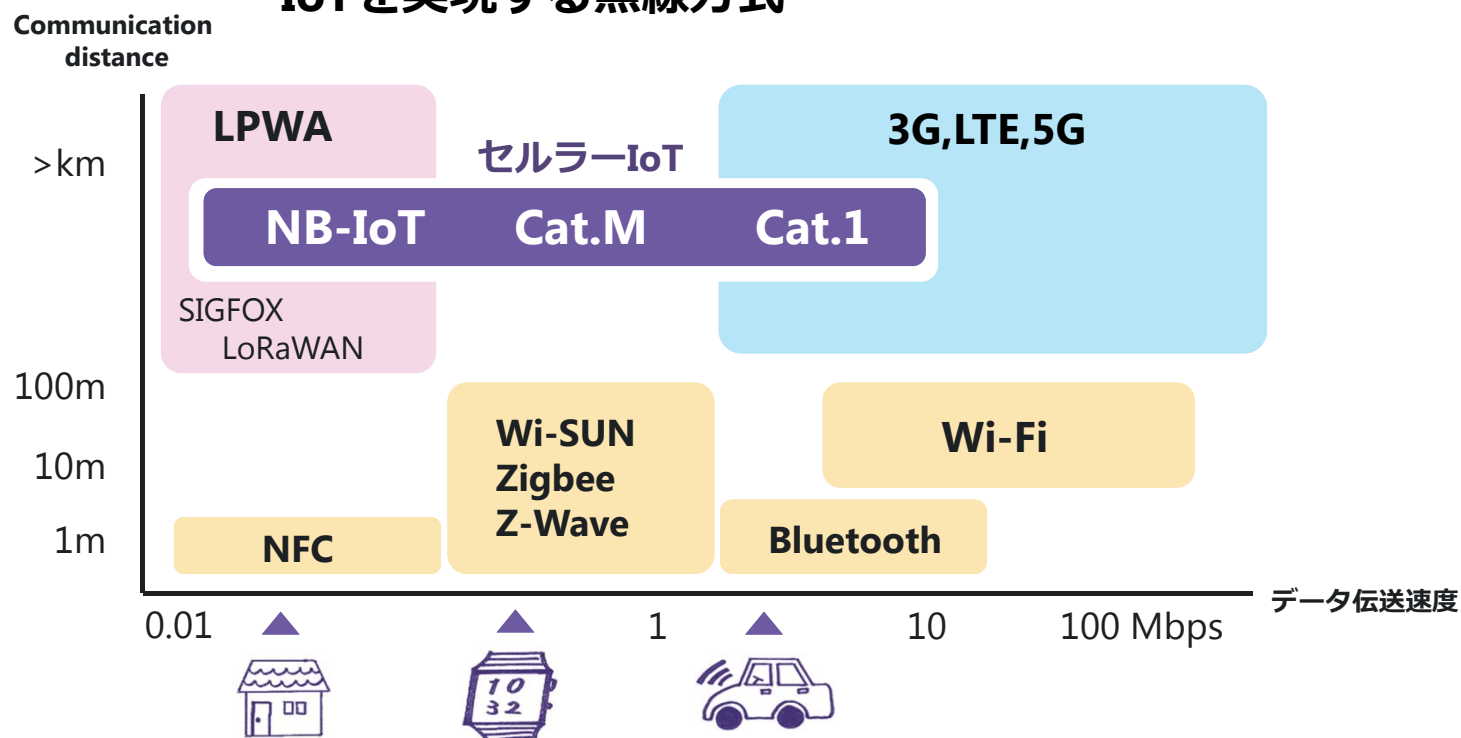


*Source : Gartner "Market Share: PCs, Ultramobiles and Mobile Phones, All Countries, 4Q17 Update" 21 Feb. 2018
Smartphone = Basic Phone, Premium Phone, Utility Phone
OS = Excluding Windows RT and Proprietary
Graph created by Anritsu based on Gartner research

II-4-2. IoT向けスマートデバイスの研究開発ソリューション

B -1

IoTを実現する無線方式



セルラーIoT向け研究開発用ソリューション

MT8821C
ラジオコミュニケーション
アナライザ



チップセット



SiP
(System in Package)

MD8430A
シグナリングテスト



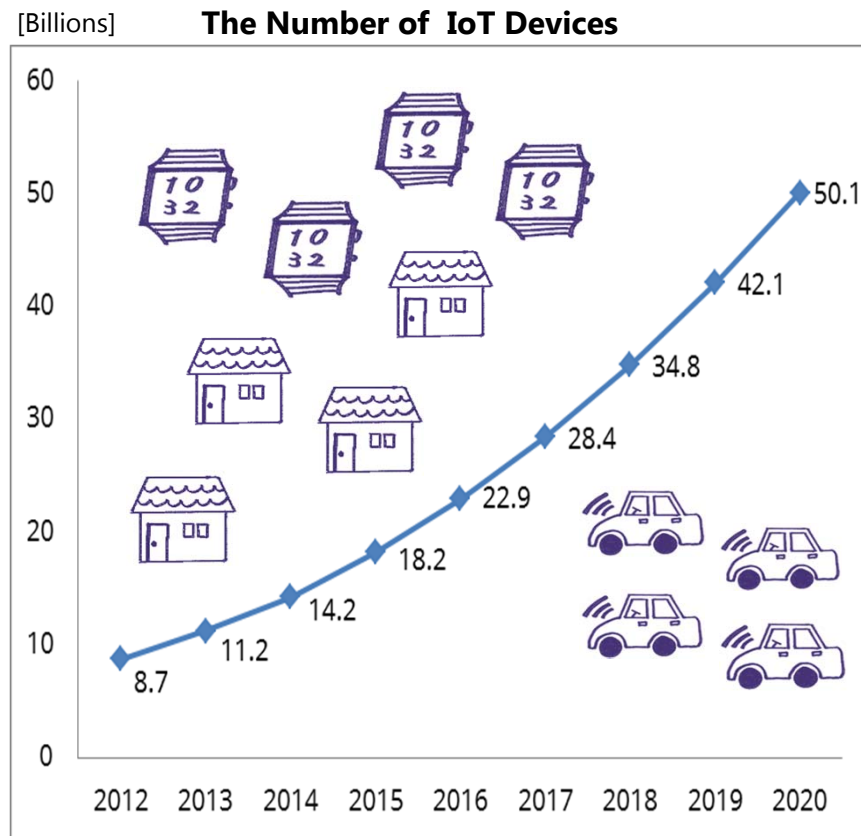
主な競合

ローデ & シュワルツ
キーサイト

Ⅱ -4-3. IoT向けスマートデバイスの製造ソリューション

B -2

IoT向けコネクティビティ&モジュール市場の成長



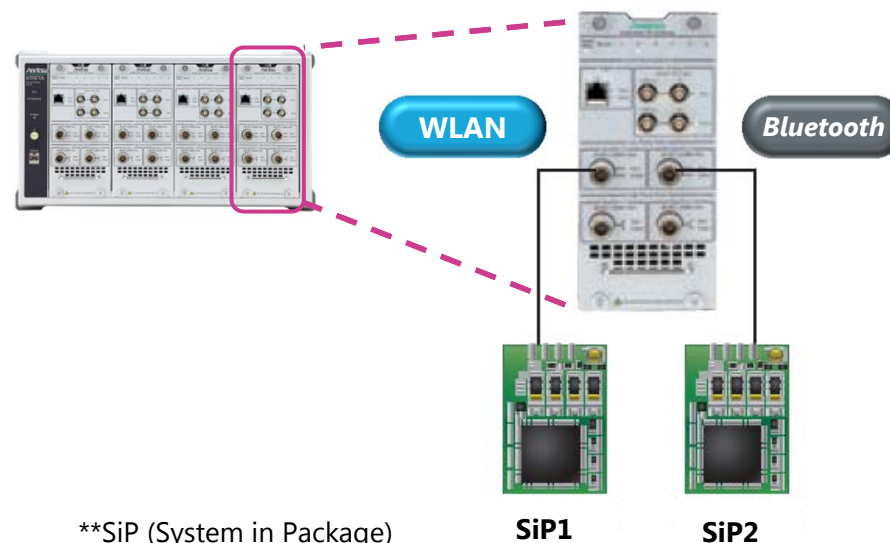
*Source : World Economic Forum

Bluetooth / WLAN向け

MT8862C ワイヤレスコネクティビティテストセット



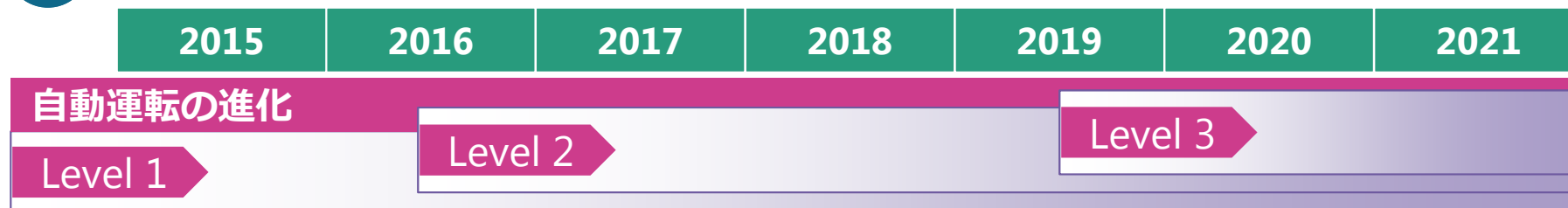
MT8870A ユニバーサルワイヤレステストセット



主な競合

テラデザイン、ナショナル・インスツルメンツ、ローデ&シュワルツ、キーサイト

Ⅱ-4-4. 自動車市場における新技術の導入と C アンリツの取り組み



- 4G対応テレマティクスの普及
- eCall搭載義務化
- 79GHzレーダーの利用拡大
- V2X実証実験の活発化

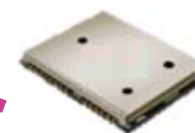
テレマティクス / eCall ※車両緊急通報



モバイルネットワーク
シミュレータ



モバイル通信 / コネクティビティ



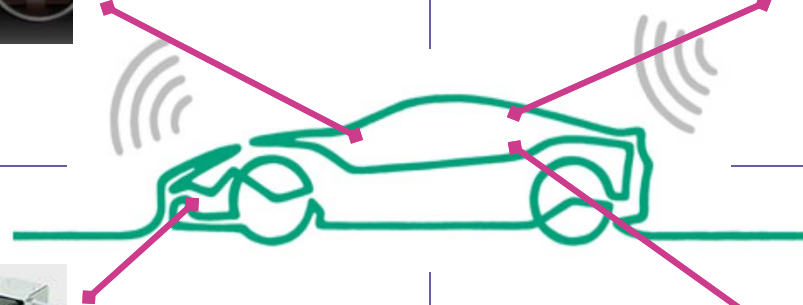
ワイヤレス通信
RF性能試験



ミリ波信号送信機テスト



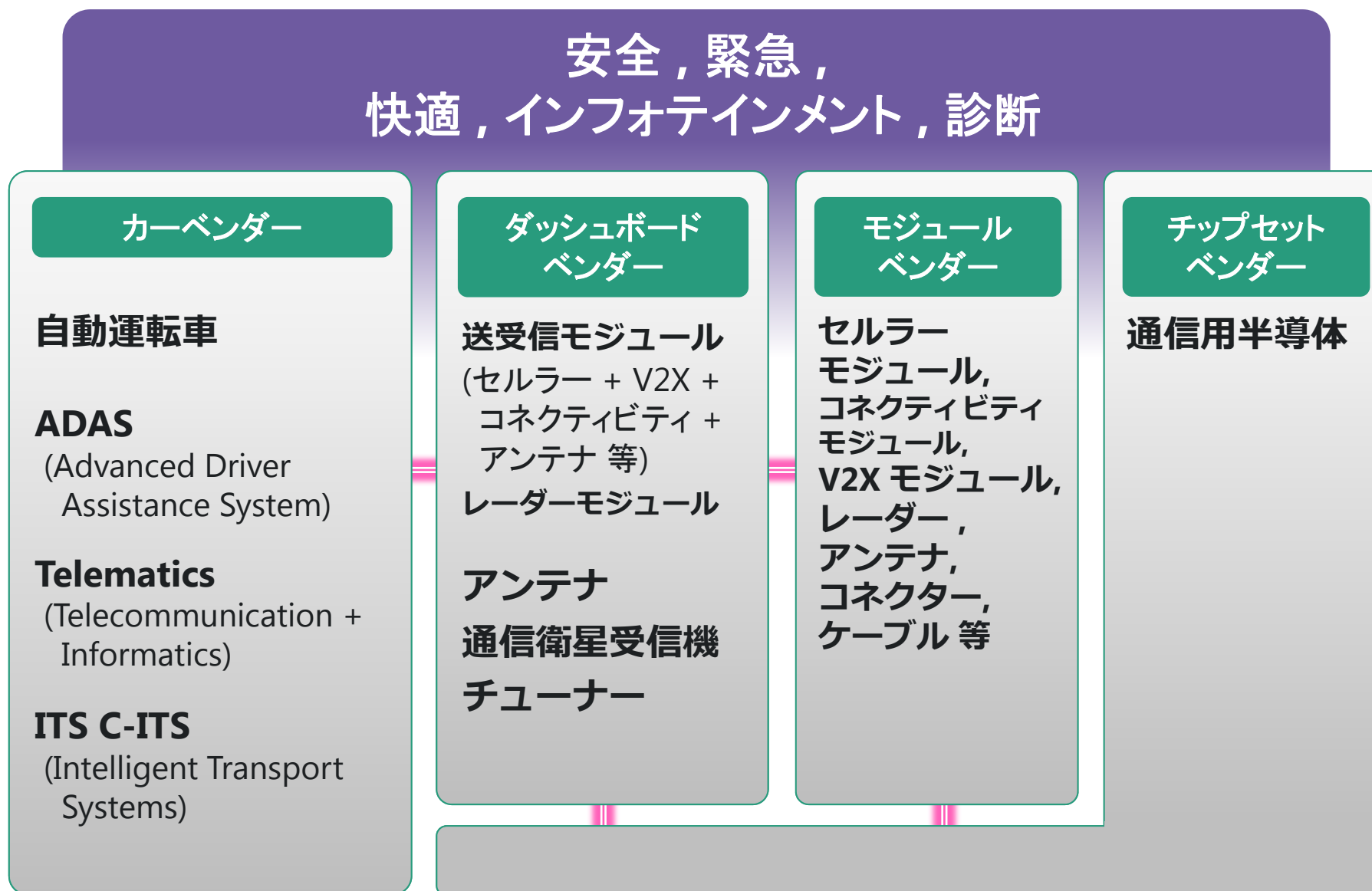
79GHz高分解能車載レーダー



V2X通信品質評価

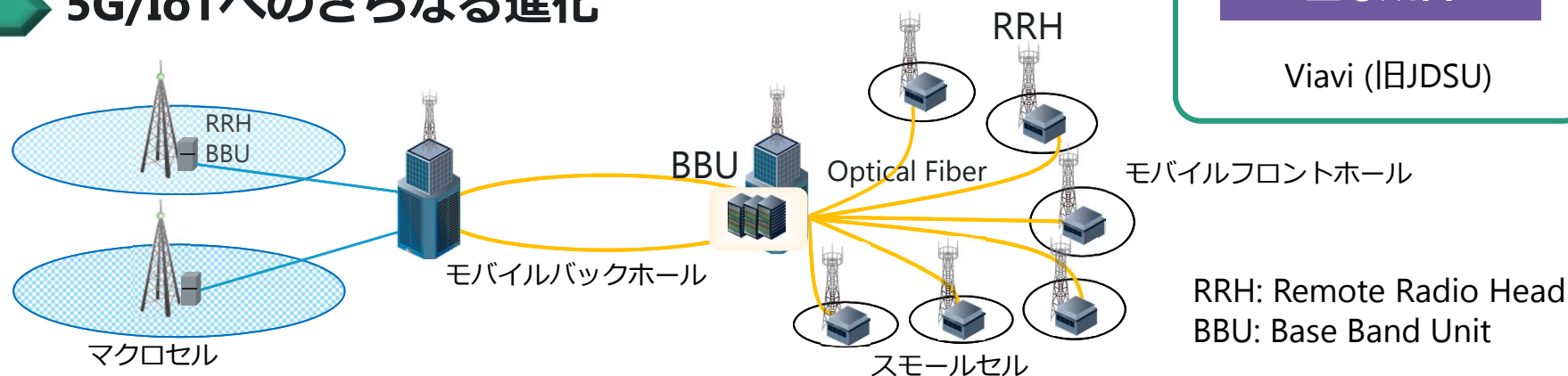
V2X (802.11p) ※ 車車間・路車間通信

Ⅱ-4-5. 自動車市場の業界構造



II -5. Network Reshaping Test Solutions

➡ 5G/IoTへのさらなる進化



主な競合

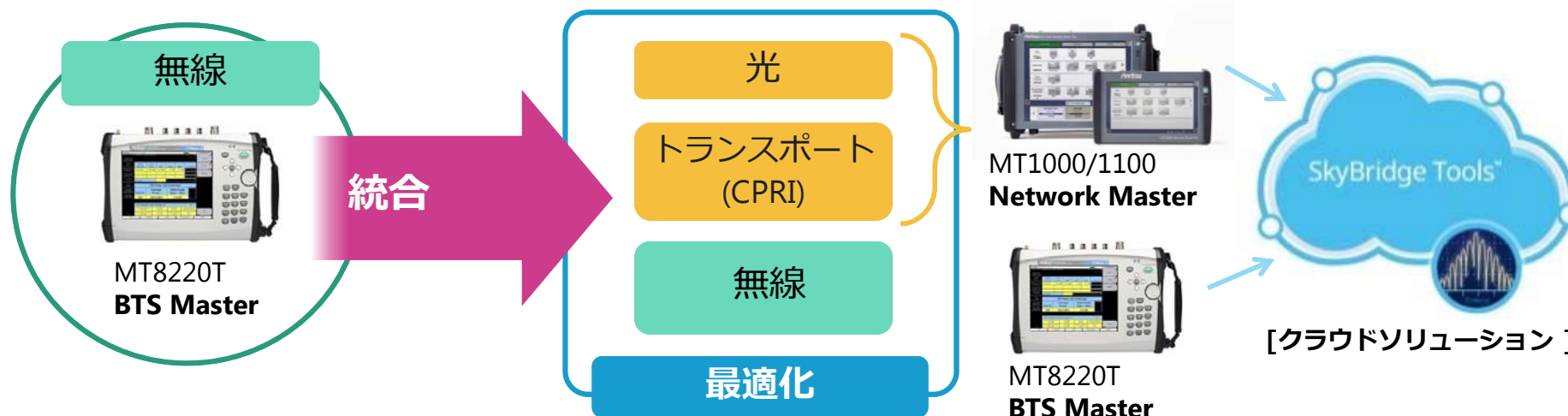
Viavi (旧JDSU)

現行LTE ネットワーク



5G ネットワーク

➡ ネットワークテストソリューションの未来を変える



Ⅱ-5-1.クラウドサービスの拡大を支えるテストソリューション

急速に伸びるデータトラフィック



グローバルデータセンターのトラフィック増加
出展: シスコ グローバルインデックス2015-2020



- データセンター増設
- 高速化
- 大容量化
- 光化

DCI (データセンター相互接続)
高速通信
10G/40GbitE→100G/200/400GbitE

主な競合

キーサイト

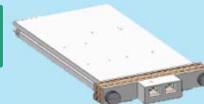
研究開発



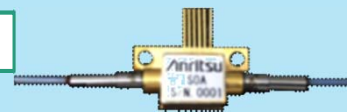
データセンター装置ベンダー
(ルーター、スイッチ等)



光モジュールベンダー



光デバイスベンダー

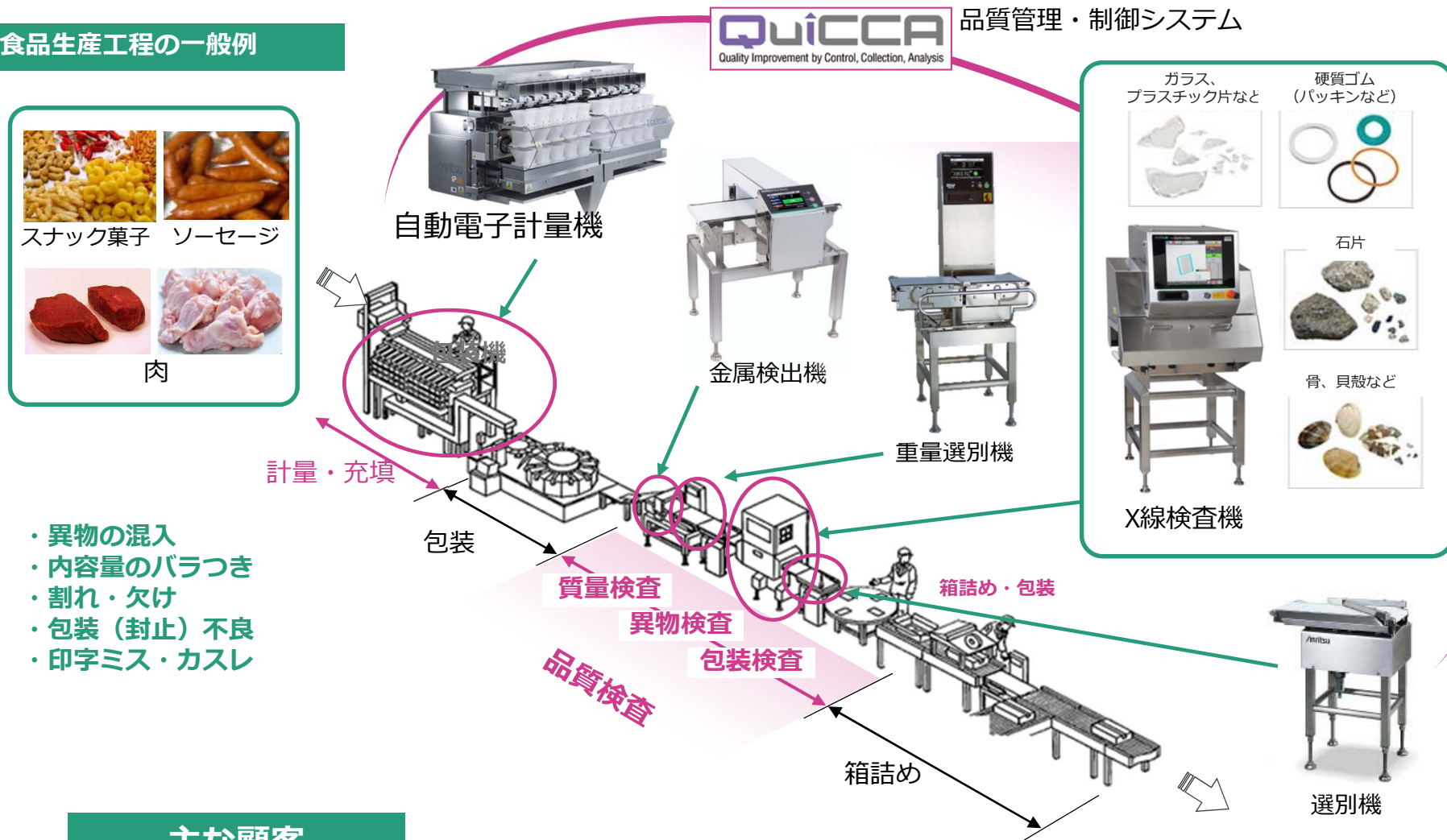


製造、設置、保守



Ⅱ-6. PQA 事業 (Products Quality Assurance)

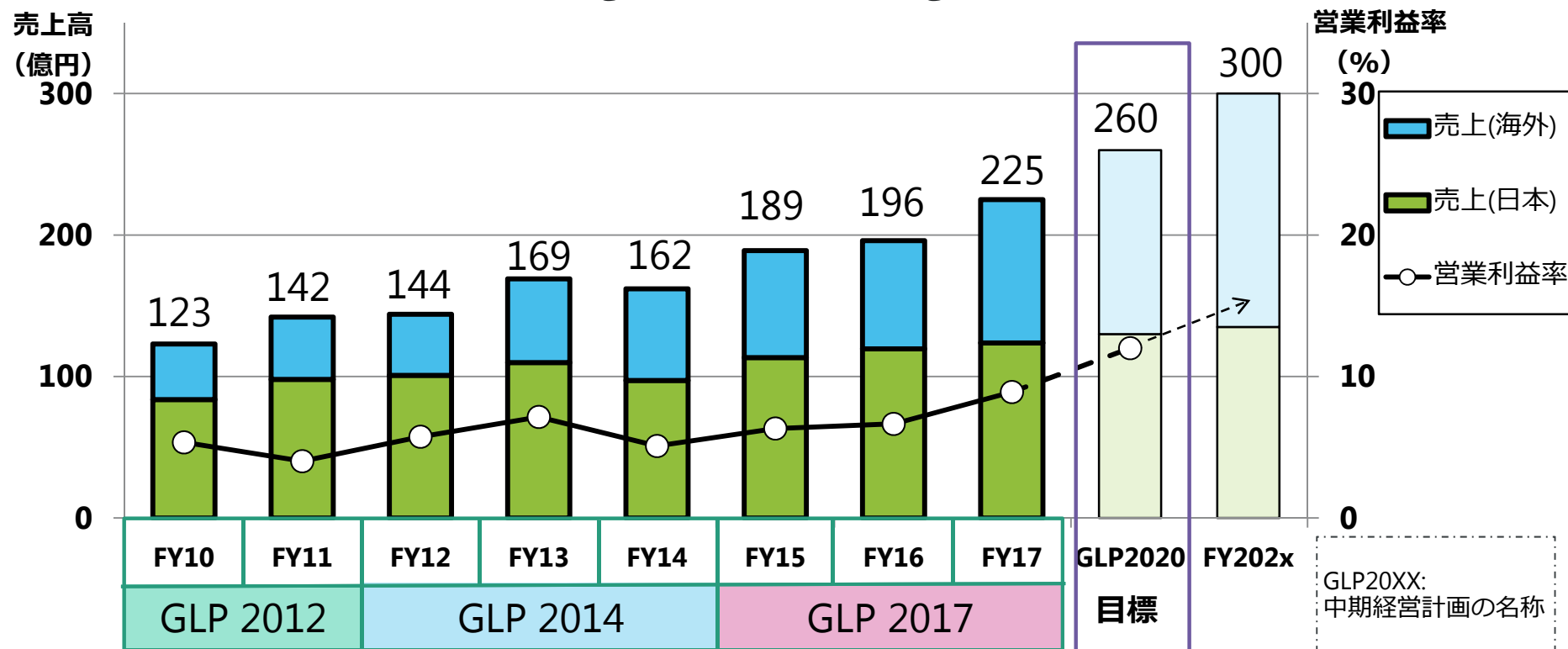
食品生産工程の一般例



主な顧客

モンデリーズ、ネスレ、クラフトハイツ、日本ハムグループ、グリコグループ、ニッスイグループなど

Ⅱ-6-1. 成長するPQA事業< PQA >



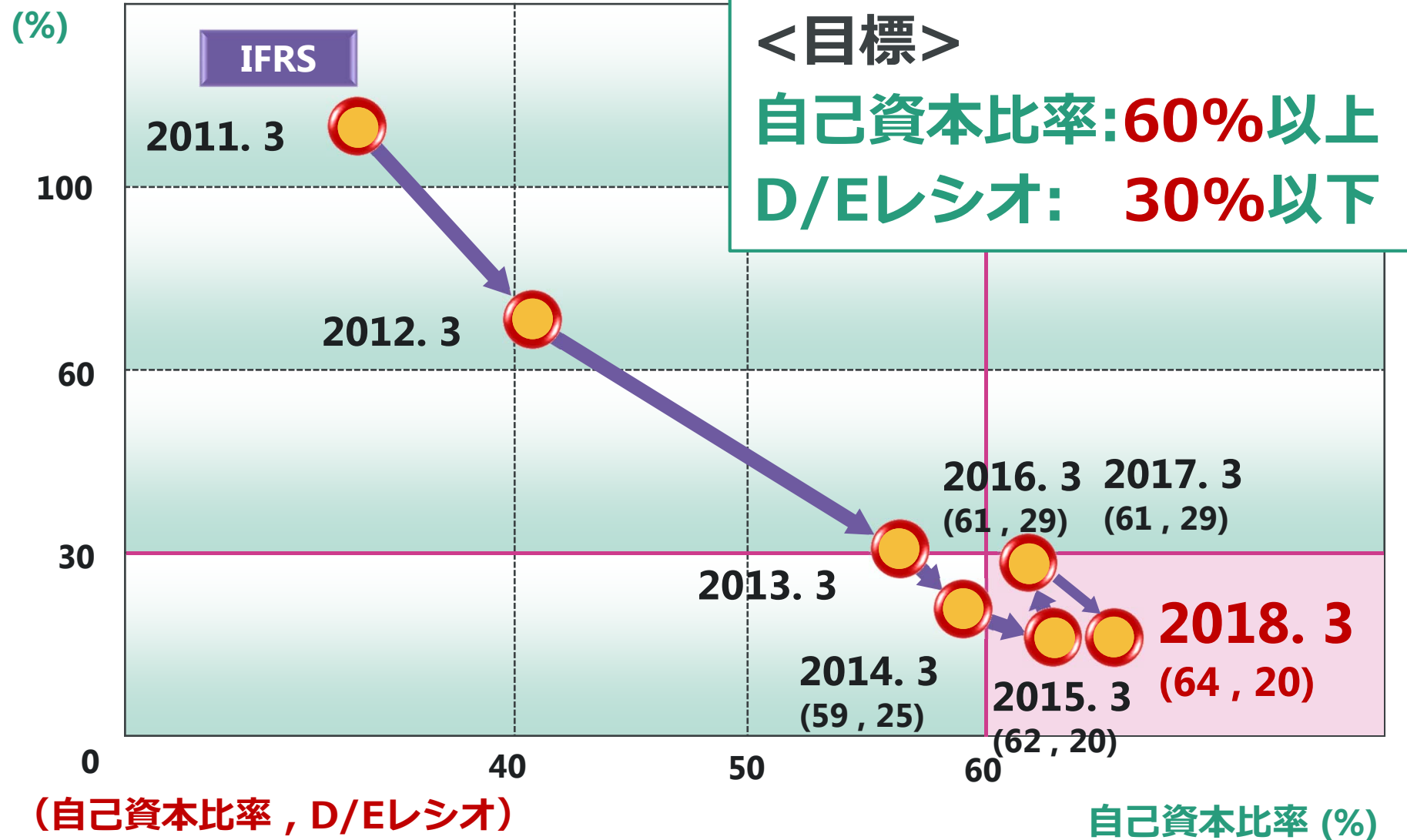
市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査器をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端ニーズに応える高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

主な競合

メトラートレド・イシダ・マレル

Ⅱ-7. 財務戦略

D/E レシオ



Blank Slide

Ⅱ-8. 株主還元

利益処分に関する基本方針

連結業績（当期利益）に応じた利益処分を行うことを基本方針とする

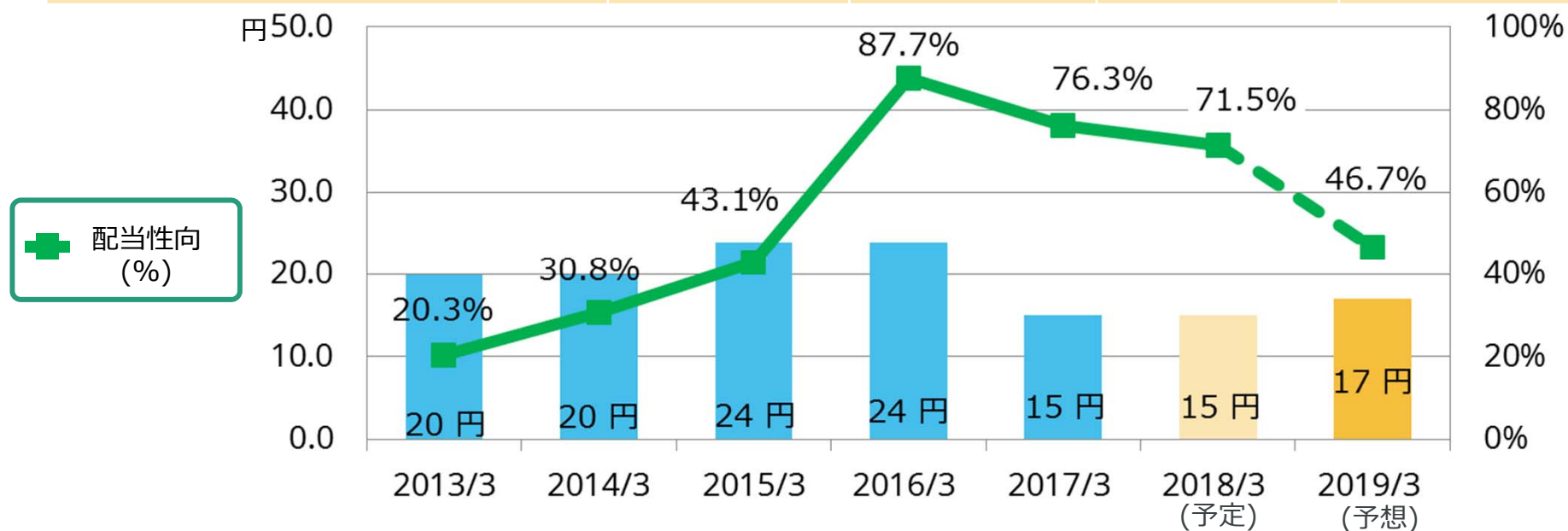
1. 連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率（DOE）を上げることを基本とする

2. 連結配当性向30%以上を目標とする

Ⅱ-9. 配当予想について

年間配当

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE
2019年3月期（予想）	17円	50億円	46.7%	3.0%
2018年3月期（予定）	15円	29億円	71.5%	2.7%



3年間の 総還元性向	GLP2014 (FY2012～FY2014)	GLP2017 (FY2015～FY2017)
	45.4% (自己株式取得50億円含む)	79.4%

Ⅲ. 2018年3月期 連結決算概要

Ⅲ-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

 減収ながら、PQAの成長で増益確保

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)	(参考) 2017/4発表 業績予想
受注高	889	885	△ 4	△0%	910
売上高	876	860	△ 16	△2%	910
営業利益	42	49	7	16%	44
税引前利益	36	46	10	27%	42
当期利益	27	29	2	6%	30
当期包括利益	33	39	6	18%	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Ⅲ- 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)	(参考) 2017/4発表 業績予想
T&M	売上高	593	544	△ 49	△ 8%	610
	営業利益	21	18	△ 3	△ 14%	22
	(調整後営業利益)	(25)	(22)*	(△3)	(△12%)	-
PQA	売上高	196	225	29	15%	215
	営業利益	13	20	7	51%	15
その他 (含：内部消去)	売上高	87	90	3	3%	85
	営業利益	8	11	3	39%	7
合計	売上高	876	860	△ 16	△ 2%	910
	営業利益	42	49	7	16%	44
	(調整後営業利益)	(46)	(53)	(7)	(15%)	-

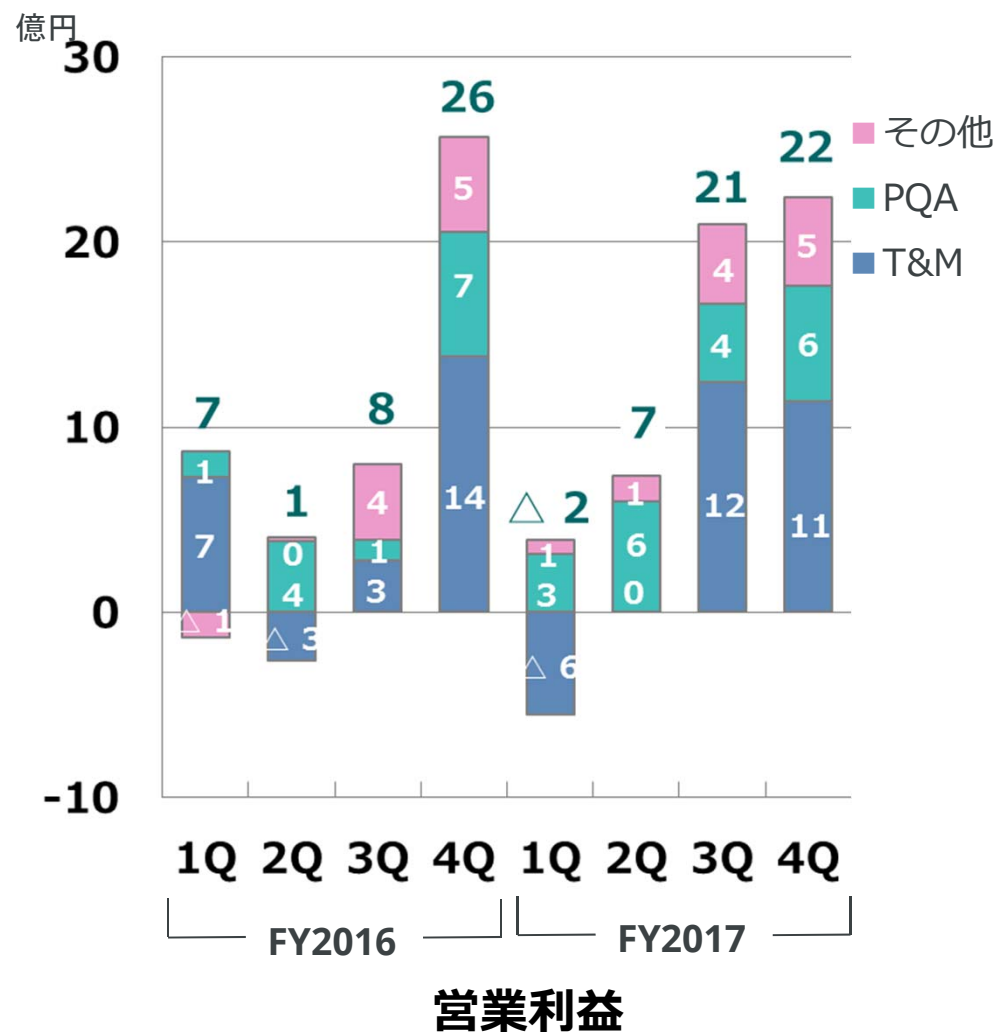
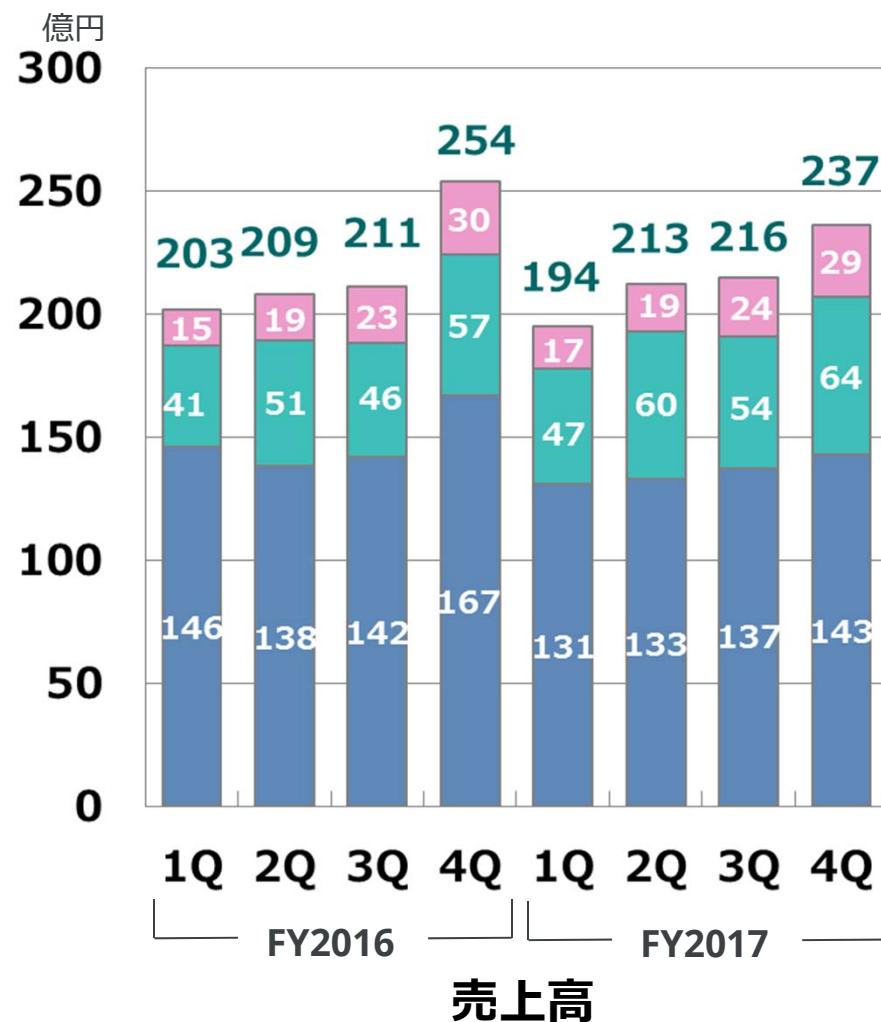
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*T&M調整後営業利益は、米国等でのリストラ費用4億円を控除した数値です。

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

Ⅲ- 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

➡ 4Q(1- 3 月)営業利益率：連結9%, T&M8%, PQA10%



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Ⅲ- 4. 事業別営業概況

セグメント		2018年3月期（4月-3月）の状況	
➡ T&M：モバイル市場の停滞続くも5G始動			
モバイル	LTE-Advanced	LTE-Advanced Proへの投資にシフト	
	5G, IoT, Connectivity	5 G新製品を市場投入	
NW	光デジタル関連への設備投資は堅調		
アジア	スマホ製造市場全体の成長鈍化で投資抑制継続		
米州	北米オペレータの基地局関連投資が縮小		
➡ PQA：国内・海外とも食品メーカーの投資意欲が旺盛に推移			

T&M: Test & Measurement

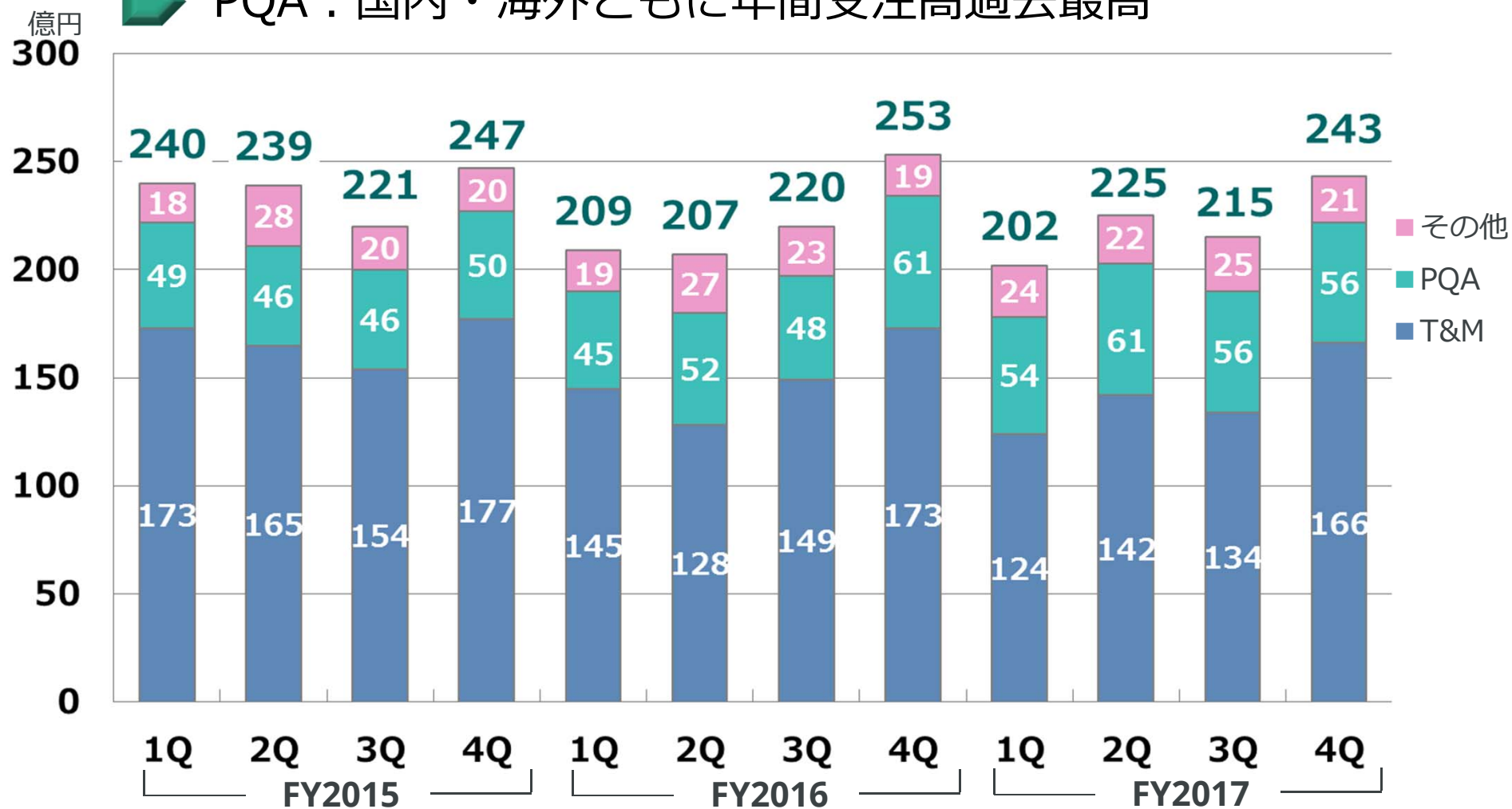
NW: Network Infrastructure

PQA : Products Quality Assurance

Ⅲ- 5. 受注高推移

➡ T&M：5G新製品がQ4受注に寄与

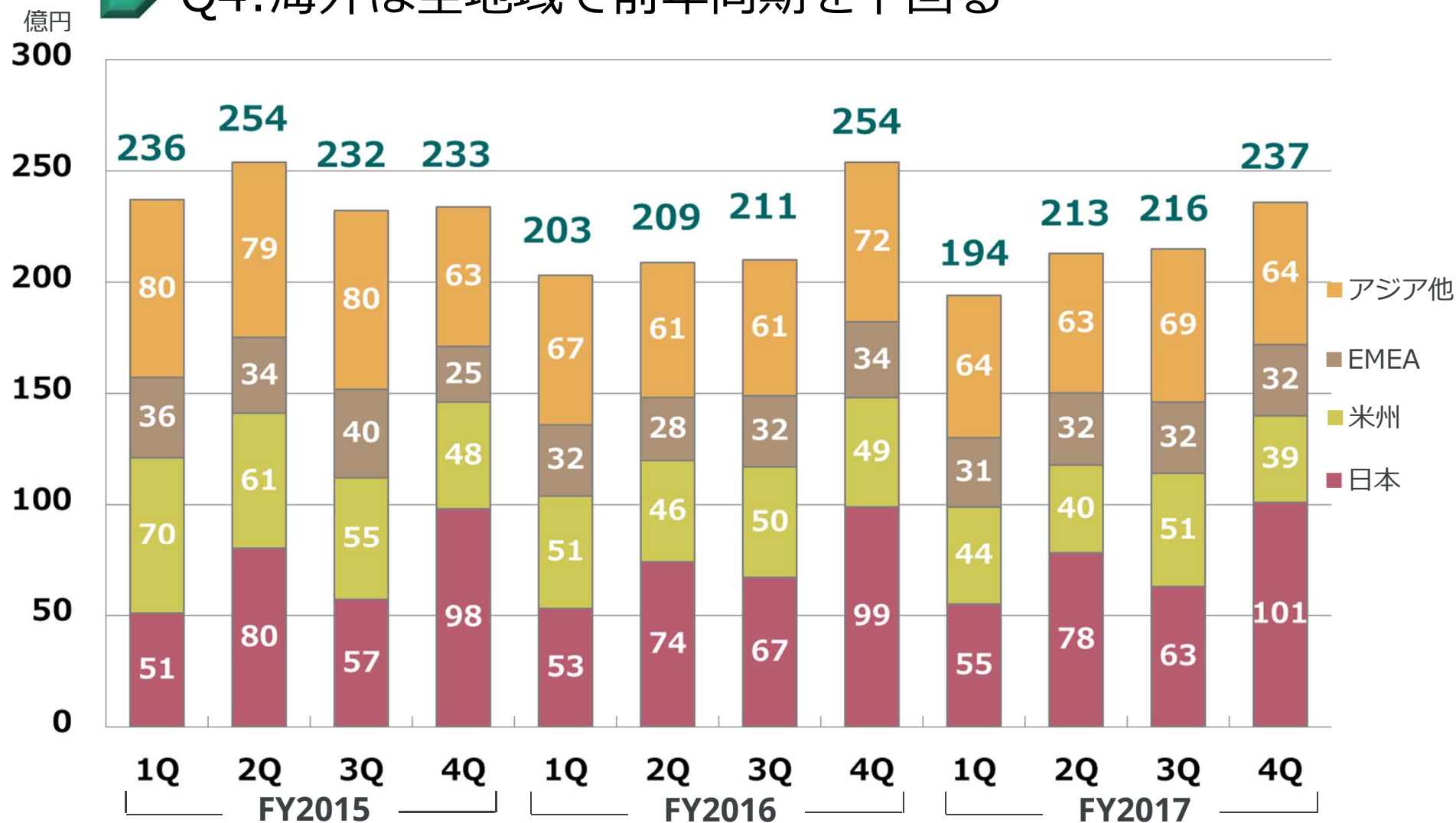
➡ PQA：国内・海外ともに年間受注高過去最高



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Ⅲ- 6. 地域別売上高推移

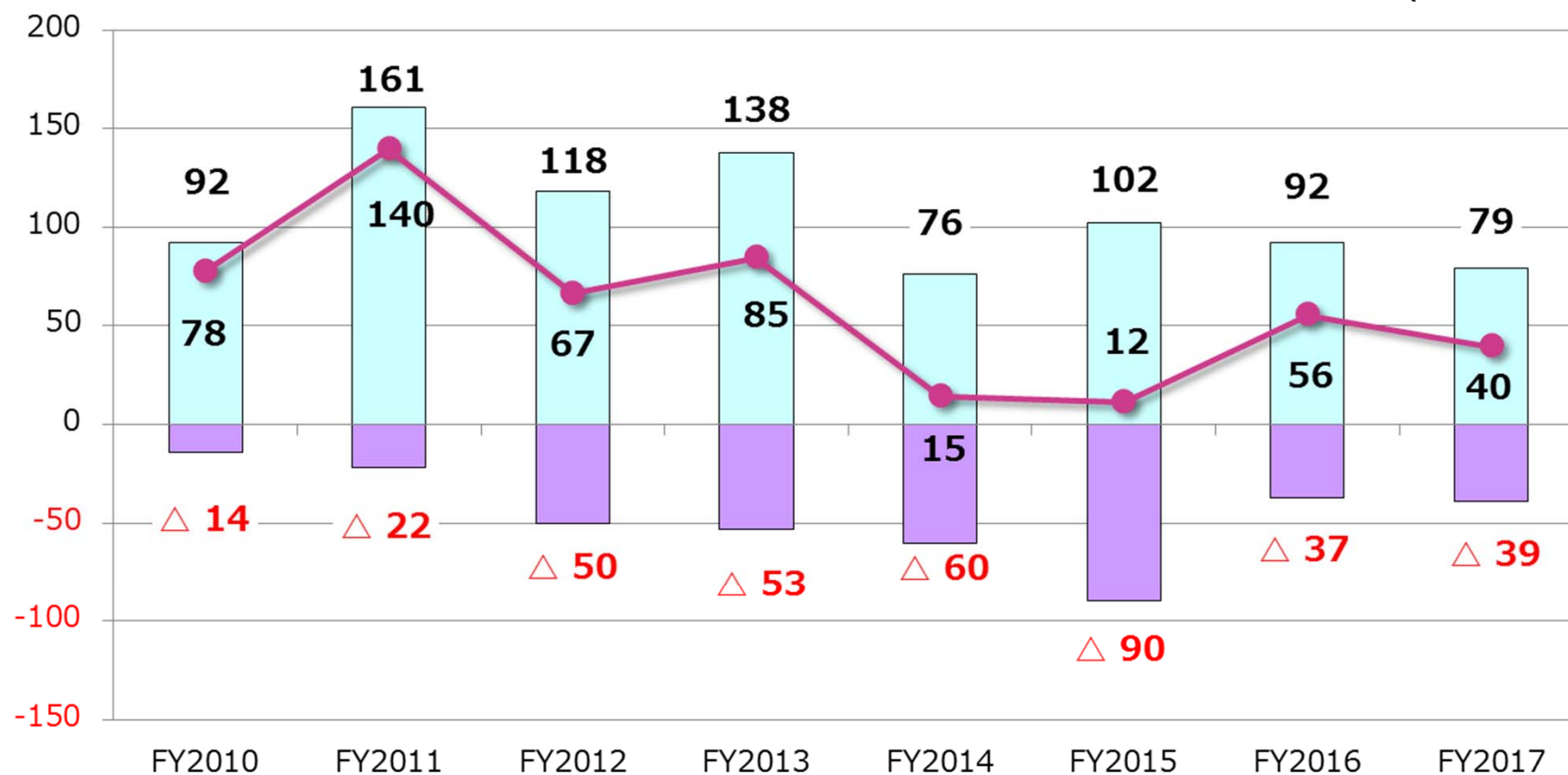
➡ Q4:海外は全地域で前年同期を下回る



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Ⅲ- 7. キャッシュフロー (1/2)

(単位：億円)



■ 営業キャッシュフロー
 ■ 投資キャッシュフロー
 ● フリーキャッシュフロー

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) FY2010は日本基準、FY2011以降は国際会計基準 (IFRS)

Ⅲ- 7. キャッシュフロー (2/2)

➡ 営業CFマージン率9.2%

FY2017 (累計)

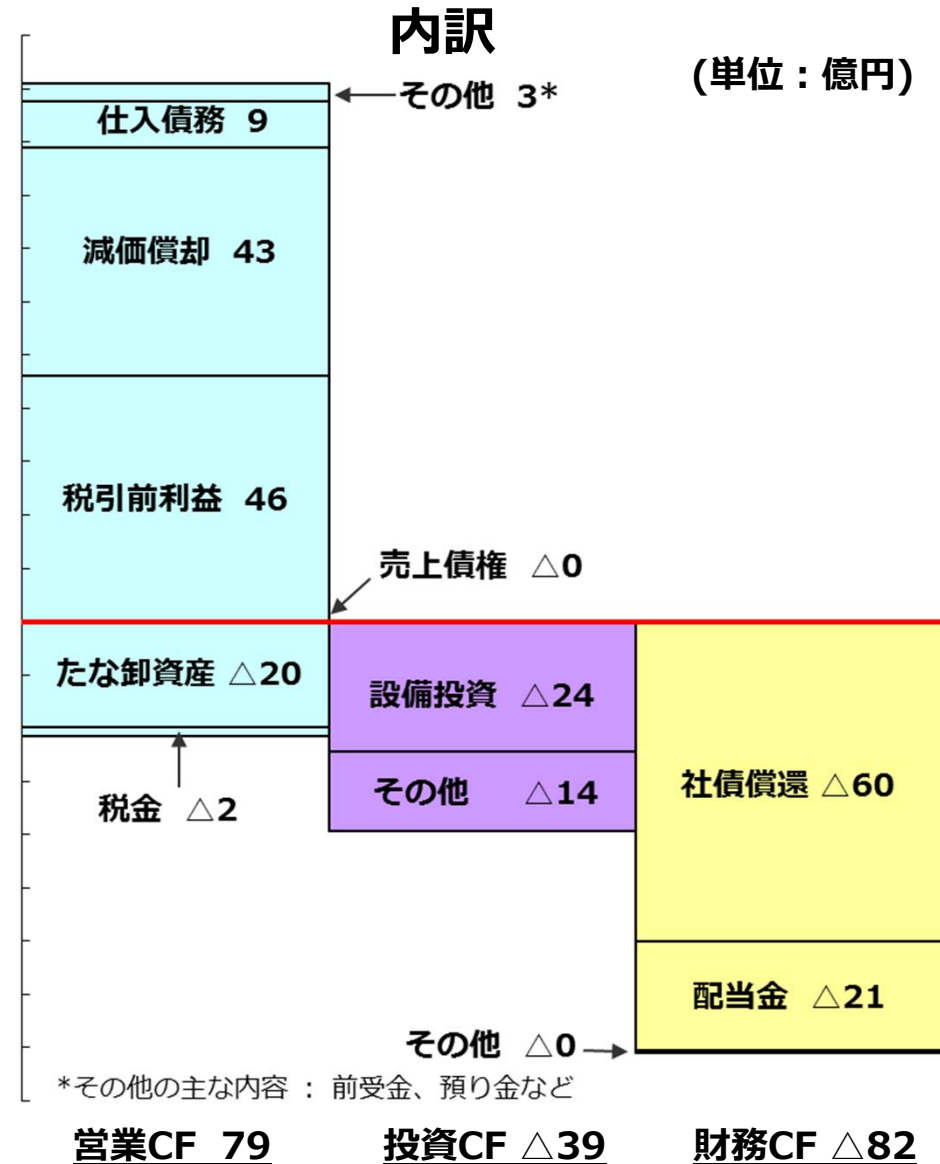
- ①営業CF： 79億円
- ②投資CF： △39億円
- ③財務CF： △82億円

フリーキャッシュフロー
(① + ②)： 40億円

現金同等物期末残高
355億円

有利子負債高
159億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



Ⅲ-8. 2019年3月期 通期業績予想（連結）

➡ GLP2020の初年度として成長のための基盤を確保

単位：億円

			2018/3期	2019/3期		
			前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高			860	920	60	7%
営業利益			49	66	17	34%
税引前利益			46	66	20	43%
当期利益			29	50	21	72%
T&M	売上高		544	600	56	10%
	営業利益		18	35	17	92%
PQA	売上高		225	235	10	4%
	営業利益		20	20	0	2%
その他 (含：内部消去)	売上高		90	85	△ 5	△ 5%
	営業利益		11	11	0	△ 1%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) FY17為替レート : 1米ドル111円、1ユーロ=130円
FY18想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円



Anritsu
envision:ensure

The logo features the word "Anritsu" in a bold, white, sans-serif font. The letter "A" is stylized with a diagonal slash. Below it, the tagline "envision:ensure" is written in a smaller, white, sans-serif font. The entire logo is centered within a large teal rectangle that has rounded corners. A smaller teal shape, resembling a triangle with a rounded top-right corner, is positioned in the bottom-left corner of the overall image.